

加賀市

加茂キツネ塚遺跡  
加茂新高遺跡  
加茂ボケ生水ウラ遺跡

2016

石川県教育委員会  
(公財)石川県埋蔵文化財センター

加<sup>か</sup>茂<sup>も</sup>キツネ塚<sup>づか</sup>遺跡  
加<sup>か</sup>茂<sup>も</sup>新<sup>しん</sup>高<sup>たか</sup>遺跡  
加<sup>か</sup>茂<sup>も</sup>ボケ<sup>しょう</sup>生<sup>ず</sup>水<sup>みづ</sup>ウラ遺跡

2016

石川県教育委員会  
(公財)石川県埋蔵文化財センター

## 例 言

- 1 本書は加茂キツネ塚遺跡、加茂新高遺跡、加茂ボケ生水ウラ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県加賀市加茂町地内である。
- 3 調査原因は地方道改築事業一般県道片山津山代線であり、同事業を所管する石川県土木部道路建設課が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成25(2013)年度から、平成27(2015)年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は石川県土木部道路建設課が負担した。
- 6 現地調査の期間・面積・担当グループ(以下G)・担当者(当時)は下記のとおりである。

《加茂キツネ塚遺跡 第1次》	期 間	平成25年9月20日～同年12月10日
	面 積	1,750㎡
	担 当	調査部特定事業調査G
	担当者	端 猛(主幹)、荒川真希子(嘱託調査員)
《加茂キツネ塚遺跡 第2次》	期 間	平成26年5月12日～同年6月11日
	面 積	450㎡
	担 当	調査部県関係調査G
	担当者	澤辺利明(主幹)、萩山教俊(嘱託調査員)
《加茂新高遺跡》	期 間	平成25年10月15日～同年12月5日
	面 積	1,140㎡
	担 当	調査部県関係調査G
	担当者	澤辺利明(主幹)、清水晃太郎(嘱託調査員)
《加茂ボケ生水ウラ遺跡 第1次》	期 間	平成26年5月13日～同年10月27日
	面 積	3,190㎡
	担 当	調査部県関係調査G
	担当者	立原秀明(主幹)、武部修一(専門員)
《加茂ボケ生水ウラ遺跡 第2次》	期 間	平成27年5月7日～同年6月10日
	面 積	670㎡
	担 当	調査部県関係調査G
	担当者	澤辺利明(主幹)、瀧野勝利(専門員)
- 7 出土品整理は、平成26・27年度に実施し、調査部県関係調査Gが担当した。
- 8 報告書の作成は平成27年度に実施し、調査部県関係調査Gが担当した。執筆分担は、下記のとおりである。編集は立原が行った。刊行は平成27年度に実施し、調査部県関係調査Gが担当した。

第1章の一部、第3章、第4章、第5章の一部：澤辺
第2章：矢部史朗(嘱託調査員)
上記以外：立原

9 調査には下記の機関、個人の協力を得た(五十音順、敬称略)。

石川県土木部道路建設課、石川県南加賀土木総合事務所、加賀市教育委員会、戸根比呂子、湯尻修平

10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

11 本書についての凡例は下記のとおりである。

(1)方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。

(2)水平基準は海拔高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。

(3)出土遺物番号は挿図、観察表、写真とで対応する。なお、実測番号との対応については、出土遺物観察表に記載している。

(4)遺構の名称は、下記の略記号に番号(算用数字)を付し表記した。

SB:掘立柱建物、SE:井戸、SK:土坑、SD:溝、P:柱穴・小穴、SX:その他(風倒木痕、不明遺構等)

(5)参考文献は第2章末に一括して記載した。

# 目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 現地調査の経過	1
第3節 整理等作業の経過	4
第2章 遺跡の位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3章 加茂キツネ塚遺跡	11
第1節 概 要	11
第2節 検出遺構・遺物	13
第3節 小 結	21
第4章 加茂新高遺跡	29
第1節 概 要	29
第2節 検出遺構・遺物	31
第3節 小 結	35
第5章 加茂ボケ生水ウラ遺跡	36
第1節 概 要	36
第2節 検出遺構・遺物	39
第3節 小 結	59
第6章 総 括	66

## 挿図目次

第1図	調査地位図	2	第26図	1～3号溝断面図	34
第2図	所収遺跡の位置	5	第27図	1～3号溝出土遺物	34
第3図	周辺の遺跡(S=1/25,000)	8	第28図	調査区割り、グリッド配置図	37
第4図	調査区・グリッド配置図	11	第29図	調査区壁土層断面図	38
第5図	加茂キツネ塚遺跡調査区全体図	12	第30図	加茂ボケ生水ウラ遺跡全体図	40
第6図	調査区壁断面図、 土層断面採図箇所案内図	13	第31図	遺跡全体図1	41
第7図	加茂キツネ塚遺跡全体図1/3	14	第32図	遺跡全体図2	42
第8図	加茂キツネ塚遺跡全体図2/3	15	第33図	遺跡全体図3	43
第9図	加茂キツネ塚遺跡全体図3/3	16	第34図	遺跡全体図4	44
第10図	SK101遺構図	17	第35図	遺跡全体図5	45
第11図	1号河道周辺平面図	18	第36図	遺構図1(SB1)	47
第12図	1号河道断面図、SD201細分区割り	19	第37図	遺構図2(SB2・3・4)	48
第13図	溝断面図	20	第38図	遺構図3(SB5・6)	49
第14図	ピット遺構図	20	第39図	遺構図4(SB7)	50
第15図	SX101遺構図	21	第40図	遺構図5(SB7)	51
第16図	1号河道出土遺物1	22	第41図	遺構図6(SB8・9)	52
第17図	1号河道出土遺物2	23	第42図	遺構図7(SE・SK)	53
第18図	1号河道出土遺物3	24	第43図	遺構図8(SK・P・SD)	54
第19図	1号河道出土遺物4	25	第44図	遺構図9(SD301・302)	57
第20図	SD202ほか出土遺物	26	第45図	遺構図10(SD)	58
第21図	調査区割り、グリッド配置図	29	第46図	遺構図11(SD)	59
第22図	加茂新高遺跡調査区全体図、 調査区西壁断面図	30	第47図	遺構図12(SX)	60
第23図	1・2号井戸遺構図	32	第48図	出土遺物実測図1	61
第24図	1号井戸出土遺物	32	第49図	出土遺物実測図2	62
第25図	1～3号溝平面図	33	第50図	出土遺物実測図3	63
			第51図	空中写真トレス図(約1/5,000)	66

## 表目次

第1表	調査体制	4	第6表	加茂キツネ塚遺跡出土遺物観察表2	28
第2表	整理等体制	4	第7表	加茂新高遺跡出土遺物観察表	35
第3表	周辺の遺跡一覧1	9	第8表	加茂ボケ生水ウラ遺跡出土遺物観察表1	64
第4表	周辺の遺跡一覧2	10	第9表	加茂ボケ生水ウラ遺跡出土遺物観察表2	65
第5表	加茂キツネ塚遺跡出土遺物観察表1	27			

## 図 版 目 次

加茂キツネ塚遺跡		調査地上空から北方を望む
図版1 遺構1	調査地から北方を望む (第1次調査区南半部調査終了時) 調査地から南東方を望む (第2次調査終了時)	発掘調査着手前の状況 A区完掘状況(南から)
図版2 遺構2	調査区全景(俯瞰、合成写真) 調査地遠景(第1次調査区北半部 完掘時 北西から) 調査地遠景(第1次調査区南半部 完掘時 北東から) 調査地遠景(第2次調査時 東から) 調査地遠景(第2次調査時 北東から)	図版11 遺構3 B区完掘状況(北から) C区完掘状況(北東から) 1・2号井戸周辺完掘状況(南から) 1号井戸土層断面ア(南西から) 1号井戸完掘状況(西から)
図版3 遺構3	第2次調査区完掘状況(南西から) SK101完掘状況(南東から) SK101土層断面オ(南東から) SD101完掘状況(北西から) SD101土層断面カ(南東から)	図版12 遺構4 2号井戸完掘状況(南西から) 調査区西壁土層断面A(東から) 1号溝完掘状況(南西から) 1号溝土層断面エ(西から) 2号溝完掘状況(南西から) 2号溝土層断面オ(南西から) 3号溝完掘状況(北東から) 3号溝土層断面キ(南西から)
図版4 遺構4	SD201完掘状況(南東から) SD201完掘状況(北西から) SD201土層断面エ(南から) SD104完掘状況(南から) SD104土層断面ケ(南から)	図版13 遺構5 加茂新高遺跡上空から北方に加茂キ ツネ塚遺跡を望む  遺物
図版5 遺構5	SD205完掘状況(北から) SD205土層断面ウ(西から) SD202～204完掘状況(南東から) SD202～204完掘状況(南から) SD202土層断面ア(南西から)	加茂ボケ生水ウラ遺跡 図版14 遺構1 H26調査区俯瞰(北から) H27調査区俯瞰(南から)
図版6 遺構6	SD203土層断面ア(南西から) SD204土層断面イ(南から) SX101土層断面ロ(南西から) 調査区壁土層断面A(南東から) 調査区壁土層断面C(南東から) 調査区壁土層断面D(北西から) 発掘作業風景(第1次調査 南西から) 発掘作業風景(第2次調査 西から)	図版15 遺構2 全体合成写真 図版16 遺構3 北部建物群 南部溝群
図版7 遺物1		図版17 遺構4 掘削終了ト区(南から) 掘削終了イ区(北から)
図版8 遺物2		図版18 遺構5 掘削終了ル区(北から) 掘削終了ツ区(西から)
加茂新高遺跡		図版19 遺構6 掘削終了チ区(南から) 掘削終了ロ区(北から)
図版9 遺構1	調査地上空から東方(加茂集落)を望む 調査地上空から西方を望む	図版20 遺構7 掘削終了ワ区(北から) 掘削終了カ区(西から)
図版10 遺構2	完掘状況(俯瞰、合成写真) 調査地上空から南方を望む	図版21 遺構8 掘削終了ホ区(南から) 掘削終了リ区(北から)
		図版22 遺構9 掘削終了ハ区(南から) 掘削終了ヨ区(南から) 掘削終了レ区(南から) 掘削終了ソ区(西から) 掘削終了ニ区(南から)
		図版23 遺構10 掘削終了ヌ区(北から) 掘削終了ネ区(東から)

図版24	遺構11	掘削終了ツ区(北から) 掘削終了へ区(北から) 掘削終了タ区(北から) ヲ区SK1完掘状況(東から) ル区SK4土層断面(東から)			ホ区SD201・202完掘状況(東から) ツ区SD301①土層断面(西から) ヌ区SD301②土層断面(西から) ヌ区SD301③土層断面(東から) ツ・ヌ区SD301(東から)
図版25	遺構12	ル区SK4完掘状況(北から) ツ区SK501土層断面(南東から) ヲ区SK501完掘状況(北東から) ル区SK5土層断面(西から) ル区SK5完掘状況(南西から) ツ区SK301土層断面(西から) ツ区SK301完掘状況(西から) ト区SE1土層断面(東から) ト区SE1完掘状況(北から)	図版31	遺構18	ヌ区SD302②土層断面(東から) ヌ区SD302(北東から) ツ区SD302①土層断面(西から) ツ区SD302(北東から) へ区SD401土層断面(北から) へ区SD401(北東から) へ区SD402土層断面(東から) へ区SD402完掘状況(東から) タ区SD702土層断面(南から) タ区SD702完掘状況(南西から)
図版26	遺構13	イ区SX1完掘状況(西から) イ区SX2遺物出土状況 イ区SX2土層断面(南から) イ区SX2完掘状況(南西から) ト区SX4土層断面(南東から) ト区SX4完掘状況(東から) ホ区SX201土層断面(東から) ト区SB1-P15土層断面(北から) ト区SB1-P12土層断面(北から) ト区SB1(東から) ル区SB2・3(北から) ル区SB4-P26土層断面(東から)	図版32	遺構19	ネ区SD703土層断面(北から) ネ区SD703完掘状況(南から) タ区SD704土層断面(西から) タ区SD704完掘状況(南東から) ネ区溝群(南から) ソ区東壁土層断面(西から) ヨ区東壁②土層断面(西から) ワ区東壁土層断面(西から) ル区東壁土層断面(西から) ヌ区西壁土層断面(東から) チ区西壁土層断面(東から) ト区西壁土層断面(東から) イ区遺構検出作業 空中写真測量委託2回目 調査区と殿様生水(南西から)
図版27	遺構14	ル区SB4-P25土層断面(東から) ロ区SB7(北から) ロ区SB7-7土層断面(西から) ロ区SB7-2土層断面(西から) カ区SB7の南辺(西から) カ区SB7-P601遺物出土状況(東から) カ区SB7-P604土層断面(北西から) ロ区SB8(北西から)	図版33	遺構20	SK701・702完掘状況(南から) SK701・702土層断面(南から) SD701完掘状況(西から) SD701土層断面イ(東から) SD701・702完掘状況(南西から)
図版28	遺構15	チ区SB10(北から) チ区P124遺物出土状況(東から) ヨ区P208完掘状況(北から) イ区SD1土層断面(北から) イ区SD1完掘状況(北から) ト区SD5・6完掘状況(南東から) チ区SD102土層断面(北東から) ヲ区SD102土層断面(西から)	図版34	遺構21	SD702・703完掘状況(北東から) SD702土層断面ク(南から) SD703完掘状況(南西から) SD703土層断面コ(南西から) SD704完掘状況(東から)
図版29	遺構16	チ区SD102土層断面(北東から) ヲ区SD102土層断面(西から)	図版35	遺構22	SD701・702完掘状況(東から) SD704完掘状況(東から)
図版30	遺構17	ホ区SD201・202土層断面(東から)	図版36	遺物1	
			図版37	遺物2	
			図版38	遺物3	



# 第1章 調査の経緯と経過

## 第1節 調査の経緯 (第1図)

本遺跡の発掘調査は、石川県土木部道路建設課(以下道路建設課)が所管する地方道改築事業一般県道片山津山代線に伴い、石川県教育委員会(以下県教委)及び公益財団法人石川県埋蔵文化財センター(以下埋文センター)により実施されたものである。

都市計画道路片山津インター山代線(一般県道片山津山代線、主要地方道山中伊切線)は、加賀市伊切町を起点とし、加賀市山代温泉を終点とする延長11,390mの道路で、北陸自動車道片山津IC、JR北陸本線加賀温泉駅と片山津温泉、山代温泉、山中温泉を直結するアクセスルートである。

このうち、一般県道片山津山代線(加賀市加茂町～山代温泉14区地内)については、加茂地内が未整備で、狭隘な集落内現道に人・車が共存しているほか、一般国道8号と交差する加茂交差点は交通上のボトルネックとなって渋滞が発生している。

本事業は、一般国道8号の4車線事業の進展にともなって、一般県道片山津山代線の整備を行うことで広域的な南北地域連携軸を構築し、地域の振興と発展ならびに当該道路の走行性・利便性・安全性の向上を図ることが目的とされている。

平成23年度に事業計画が道路建設課から、石川県教育委員会文化財課(以下文化財課)に提示され、同年度及び24年度に事業地内の分布調査が実施された。その結果、3箇所で見事に埋蔵文化財包蔵地が確認され、所在地の小字名からそれぞれ、加茂キツネ塚遺跡、加茂新高遺跡、加茂ボケ生木ウラ遺跡と名付けられた。

道路建設課及び工事担当の石川県南加賀土木総合事務所(以下南加賀土木)と文化財課による協議・調整の結果、工事による埋蔵文化財への影響が避けられないことや、3遺跡分の調査対象面積が7,200㎡になることが確認され、現地調査は複数年に分けて国道8号以北を優先的に完了させることが決定された。

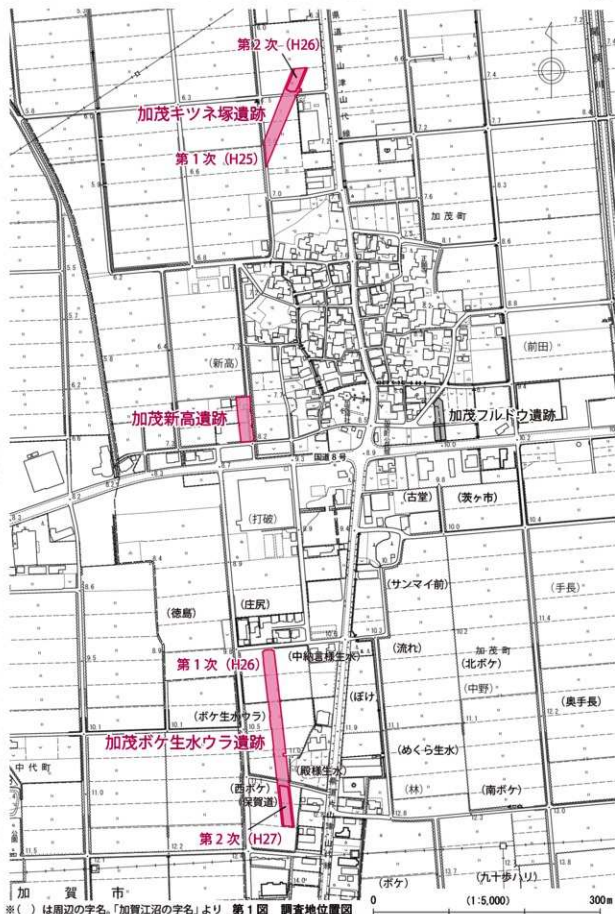
## 第2節 現地調査の経過

### ・加茂キツネ塚遺跡 調査の経過

発掘調査は平成25・26年度に実施した。発掘面積は2,200㎡であり、初年度に1,750㎡を、次年度に450㎡の調査を実施した。それぞれの調査範囲について、道路両側の水路敷設工事を農閑の冬期間に竣工する必要があるため、初年度に水路全域を含む調査が要望されたことから、変則的な調査区形状となった。

平成25年度 9月13日に南加賀土木、文化財課、埋文センターの三者による現地協議を行い、事業計画や調査範囲、ユニットハウス設置場所、駐車場等を確認した。調査区は二分し、まず北半部から調査着手。10月1日に重機による表土除去に着手。10月7日より作業員投入。10月31日には空中写真測量実施。北半部埋め戻しののち11月7日より南半部の調査に着手した。天候不順な日が多く湧水に難儀したが12月5日には第2回空中写真測量を実施した。その後補足調査を行い、12月10日には発掘機材撤収。南加賀土木に現場を引き渡し現地調査を終了した。

平成26年度 4月25日に南加賀土木、文化財課、埋文センターの三者による現地協議を行った。



※ ( ) は周辺の字名。「加賀江沼の字名」より 第1図 調査地位置図

現地調査は5月12日に重機による表土除去に着手。翌5月13日より作業員投入。三方が昨年度調査済み区に接し遺構の状況がうかがわれたもので、遺跡端に接する調査区南半部は遺構が希薄。主な遺構は北半部の自然河道でありその掘削に時間を要した。6月2日に空中写真測量実施。6月4日に発掘機材撤収。6月10日に南加賀土木に現場を引き渡し現地調査を終了した。

#### ・加茂新高遺跡 調査の経過

発掘調査は平成25年度に実施した。加茂キツネ塚遺跡と同日の9月13日に南加賀土木、文化財課、埋文センターの三者による現地協議を行い、事業計画や調査範囲、ユニットハウス設置場所、駐車場所等を確認した。また、調査地に接して農業用倉庫が位置するが、ここへの進入路確保のため調査区を分割して調査を実施することとなった。調査区は三分し、まず中央のB区から調査着手。10月22日に重機による表土除去を行い、翌23日より作業員投入。遺構・遺物の密度は薄く11月7日にはB区空中写真測量実施。その後南側のA区に調査着手した。B区の埋め戻し、倉庫からの進入路造成を待って、11月19日にはC区にも調査着手、11月21日にA・C区空中写真測量を実施した。その後補足調査を行い、12月5日には発掘機材撤収。南加賀土木に現場を引き渡し、現地調査を終了した。

#### ・加茂ボケ生水ウラ遺跡 調査の経過

発掘調査は平成26・27年度に実施した。発掘面積は3,860㎡であり、初年度に3,190㎡を、次年度に670㎡の調査を実施した。それぞれの調査範囲について、道路両側の水路敷設工事を農園の冬期間に竣工する必要がある、初年度に水路全域を含む調査が要望されたことから、変則的な調査区形状となった。

平成26年度 4月25日に南加賀土木、文化財課、埋文センターの三者による現地協議を行い、事業計画や調査範囲、ユニットハウス設置場所、駐車場所等を確認した。

調査地は、数区両分の水田と大豆田の中央を東西幅16m、南北長237mで縦断するため、田畠を東西に分断する形となっていた。田畠は調査期間中も耕作されるとのことであり、東側田畠への農作業車通路及び水路の確保が必要であった。このため、調査地内に仮設農道と4箇所の横断水路が設けられていた。これらは作物の収穫終了まで撤去できないことから、先行部分として仮設農道と水路以外を調査し、収穫後に残り部分の調査を行う予定としていた。しかし、表土置き場の不足や水田からの漏水等により、先行部分について切り替えしが必要となり、さらに田畠の作物収穫に時期差があることから仮設農道と水路部分も2分割することとなり、大きく4回の各作業工程が必要となった。

5月13日に重機による事務所・駐車場用地の造成、26日から表土除去に着手した。6月4日から作業員を入れて調査開始。遺跡は過去の耕地整理によって削平されていること、遺構は調査地の北側と南側に集中することを確認した。7月10日に1回目の空中写真測量を実施。7月14日から仮設農道と水路以外の部分について切り替えしの表土除去を実施。8月27日に2回目の空中写真測量を実施。8月29日から北側の仮設農道と水路部分の表土除去。9月23日に3回目の空中写真測量を実施。9月29日から南側の仮設農道と水路部分の表土除去。10月16日に4回目の空中写真測量を実施。10月20日に一部遺構の埋戻しを行って、10月21日に発掘機材撤収、南加賀土木に現場を引き渡し現地調査を終了した。

平成27年度 4月25日に南加賀土木、文化財課、埋文センターの三者による現地協議を行った。現地調査は5月12日に重機による表土除去に着手。5月14日より作業員投入。三方が昨年度調査済み区に接し遺構の状況がうかがわれたものであるが、別遺構と予想したSD701とSD702が南東部で直

角に折れ接続したことは驚かされた。また、検出した各溝はいずれも深く掘削に時間を要した。6月2日に空中写真測量実施。6月4日に発掘機材撤収。6月10日に南加賀土木に現場を引き渡し現地調査を終了した。

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
調査主体	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター（理事長 木下公司）		
総括	橋本定則（専務理事）	小崎隆司（専務理事）	柴田政秋（専務理事）
事務	柴山正文（事務局長） 山口 登（総務GL）	柴山正文（事務局長） 山口 登（総務GL）	釜親利雄（事務局長） 長嶋 誠（総務GL）
調査	福島正実（所長） 藤田邦雄（調査部長） 松山和彦（県関係調査GL）	福島正実（所長） 藤田邦雄（調査部長） 松山和彦（県関係調査GL）	福島正実（所長） 藤田邦雄（調査部長） 松山和彦（県関係調査GL）
担当	・加茂キツネ塚遺跡（第1次） 端 猛（特定事業調査G主幹） 荒田真希子（特定事業調査G嘱託調査員） ・加茂新高遺跡 澤辺利明（県関係調査G主幹） 清水晃太郎（県関係調査G嘱託調査員）	・加茂キツネ塚遺跡（第2次） 澤辺利明（県関係調査G主幹） 萩山教授（県関係調査G嘱託調査員） ・加茂ボケ生水ウラ遺跡（第1次） 立原秀明（県関係調査G主幹） 武部修一（県関係調査G専門員）	・加茂ボケ生水ウラ遺跡（第2次） 澤辺利明（県関係調査G主幹） 瀧野勝利（県関係調査G専門員）

第1表 調査体制

### 第3節 整理等作業の経過

道路建設課から依頼を受けた県教委の委託事業として、平成26年度に加茂キツネ塚遺跡（第1・2次）、加茂新高遺跡、加茂ボケ生水ウラ遺跡（第1次）の出土品整理。平成27年度に加茂ボケ生水ウラ遺跡（第2次）の出土品整理及び3遺跡の報告書の作成・刊行を実施した。出土品整理の内容は、記名・分類・接合、復元、実測・トレース、遺構実測図トレースなどである。なお、遺物の洗浄は平成25年度に加茂キツネ塚遺跡（第1次）、加茂新高遺跡。平成26年度に加茂キツネ塚遺跡（第2次）、加茂ボケ生水ウラ遺跡（第1次）。平成27年度に加茂ボケ生水ウラ遺跡（第2次）を実施した。

年度	平成26年度	平成27年度
調査主体	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター（理事長 木下公司）	
総括	小崎隆司（専務理事）	柴田政秋（専務理事）
事務	柴山正文（事務局長） 山口 登（総務GL）	釜親利雄（事務局長） 長嶋 誠（総務GL）
調査	福島正実（所長） 藤田邦雄（調査部長） 松山和彦（県関係調査GL）	福島正実（所長） 藤田邦雄（調査部長） 松山和彦（県関係調査GL）
担当	県関係調査G	県関係調査G

第2表 整理等体制

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

加茂キツネ塚遺跡、加茂新高遺跡、加茂ボケ生水ウラ遺跡はいずれも石川県加賀市加茂町地内に所在する。

加賀市は石川県の南西端に位置しており、北側は日本海に面し、東は小松市、西は福井県あわら市、坂井市、勝山市と接している。平成17年旧加賀市と旧山中町が合併し、市域は面積306.0km<sup>2</sup>、周囲98.5kmを有する。人口は平成28年2月1日現在69,288人であり、平成2年の80,720人(合併前の両市町の合計)をピークに減少傾向にある。交通はJR北陸本線と国道8号が市域の平野部に東西方向に並走し、海岸沿線走る北陸自動車道は南側で内陸に入り、福井県境を越えた付近でJR北陸本線と国道8号に交差する。伝統産業として、加賀市が発祥地とされる九谷焼は独特の絵付様式が全国的に知られ、山中漆器は高い木地挽物技術が現代に継承されている。また、山中温泉、山代温泉、片山津温泉の北陸を代表する3つの温泉街は小松市の粟津温泉とともに加賀温泉郷として広く知られる。

市域の地形は、東西帯状に広がる江沼平野を中心に北側は海岸線に沿って江沼砂丘、橋立丘陵、橋立台地、小松砂丘、柴山台地、東側は小松市より続く月津台地、南側は加賀山地、能美山地、江沼丘陵が分布し、江沼平野には小松市と福井県の境界に位置する大日山(標高1,368m)を源とする大聖寺川と動橋川が流れ込む。同平野は沿岸州により閉塞した潟湖に、砂と泥を主体とした河川運搬物が堆積して形成されており、両河川に挟まれた同平野の中央部では、江沼丘陵より河岸段丘が双頭状に張り出し、北側の橋立丘陵、橋立台地との間に、いくつかの微高地をもつ三角州を形成している。大聖寺川は市域北西部の福井県境で日本海へ、動橋川は北東部で柴山台地の南に位置する柴山潟に至る。

本書に所収した3遺跡の所在する加茂町は、山代温泉が位置する江沼丘陵より張り出す河岸段丘下の三角州中央部に位置する。町域東部には、双頭状の河岸段丘間から尾俣川が流れ込み、町域の大半を水田と畑地が占め、穀倉地帯である江沼平野の典型を呈する。また、国道8号が町域を南北に二分し、集落は北側に所在する。加茂キツネ塚遺跡は集落の北側、加茂新高遺跡は同集落南縁部の国道8号北側、加茂ボケ生水ウラ遺跡は国道8号南側にそれぞれ位置する。加茂ボケ生水ウラ遺跡の隣接地には殿様生水と呼ばれる湧水があり、幕末における旧江沼郡の地誌『加賀江沼志稿』などの文献には、慶安元年(1648)頃より加賀藩主前田利常(微妙公)や大聖寺藩主が山代温泉に入湯の際、お茶の水にこの湧水を愛用したと記述される。また、近郷の人々や旅人には銭一貫文の価値がある名水、一貫生水の名で親しまれ、集落に所在する加茂神社の洒かけ岩は、生水に感謝の意を表したものと伝えられる。他にも湧水を示す字名が残る当地域では、古くから生活用水や農業用水として、良質で安定した水源に恵まれたことが窺い知れる。



第2図 所収遺跡の位置



現在の殿様生水

## 第2節 歴史的環境

加賀市ではこれまで850箇所もの遺跡が確認されており、県内屈指の遺跡数を誇る。市域で最古の遺跡は、橋立台地に位置する宮地向山遺跡であり、旧石器時代の石刀や搔器の出土が確認されている。縄文時代に入り、橋立丘陵、橋立台地、柴山台地の縁辺部、大聖寺川・動橋川両流域の河岸段丘、谷底低地に遺跡が分布するようになる。津波倉遺跡(36)は動橋川中流域左岸の河岸段丘上に位置する前期の遺跡であり、土器や石器が出土している。中期では、江沼平野の西部、橋立丘陵と大聖寺川右岸の間に位置する藤ノ木遺跡があり、多種多量に出土した土器は上山田式・古府式など、北陸特有の土器に加え、東海・近畿・関東系土器を含むことから、周辺地域では東西交流が盛んであったと考えられる。後期では、動橋川中流域左岸の扇状地に位置する横北遺跡(40)より注口土器や異形土製品の出土が確認されている。

弥生時代に入り、前期末の標識遺跡である柴山出村遺跡や、隣接する柴山水底遺跡において、柴山湾沿岸の湿地を利用した原始的な水稲栽培の開始が確認され、江沼平野における集落の展開がいよいよ顕著となる。中期では、動橋川中流域左岸の河岸段丘上に位置する二子塚東田遺跡(39)から竪穴住居が確認されており、後期では八日市川流域の自然堤防・後背湿地に展開する猫橋遺跡(49)、弓波遺跡(51)が知られる。標識遺跡である猫橋遺跡では、稲作が行われていたことを示す炭化米や多量の木製品の出土とともに、集落から方形周溝墓も確認されており、灌漑技術・土木技術発展に伴う組織形成の様相を呈する。

古墳時代に入り、稲作農耕の定着による階級社会が誕生し、江沼平野を見下ろす丘陵や台地の縁辺部に多くの古墳が築造されてゆく。古墳造営の集中区域は、河川の水利権の掌握と関係すると考えられ、大聖寺川左岸の低丘陵縁辺部(黒瀬・吸坂・南郷古墳群)、動橋川右岸の低丘陵縁辺部(分校・松山古墳群)、同左岸の段丘部(二子塚古墳群)、八日市川左岸の橋立丘陵(敷地・小菅波古墳群)と橋立台地の縁辺部(片山津・富塚古墳群)などの地域に大別される。加賀市最古の古墳は、橋立台地南縁部に位置する前方後円墳の小菅波神社裏B1号墳(61)であり、同台地上に位置する該期の片山津玉造遺跡(54)は、管玉などの玉造り工房を内部に備えた竪穴住居からなる、専門的な工人の集落遺跡として広く知られる。中期に入り、吸坂A3号古墳(14)や吸坂イカリ山13号墳(17)など、全長約60mを超える大型の前方後円墳が相次いで築造されるようになる。また、全長55mを測る前方後円墳で、畿内王陵墓の形態を有し、江沼地方を統治した江沼臣の墓と推定される狐山古墳(38)、円墳からなる松山古墳群(42)も該期に築造される。後期に入り、狐山古墳に続く豪族の墳墓で、全長100m以上の前方後円墳と推定される富塚丸山古墳(55)が築造される一方、黒瀬御坊山古墳群(22)、二子塚東田古墳群(37)に代表される、小規模の古墳からなる群集墳も多く築造される。

6世紀に朝鮮半島より伝来した仏教が江沼地方においても浸透し、有力豪族たちは古墳に代わり氏寺を建立するようになったと考えられる。江沼平野周辺では、白鳳時代に津波倉廃寺(32)、弓波廃寺(52)、保賀廃寺、宮地廃寺、平安時代末葉に高尾廃寺が建立されており、一地方での建立数としてはかなり多いことから、支配階級層の間で仏教が強く浸透していたと推定される。古代寺院に関係する遺跡として、動橋川中流域左岸の低丘陵上に位置する黒瀬瓦窯跡(20)から保賀廃寺と同様の瓦が出土しており、供給関係にあることが判明している。江沼地方は大宝律令の制定(701年)により「越前国江沼郡」となり、弘仁14年(823)に加賀国が越前国から独立する。これに伴い江沼郡の北半が能美郡として分立し、加賀江沼郡には、長江・八田・忌波・山背・竹原・額田・菅浪・三枝の八郷、あ

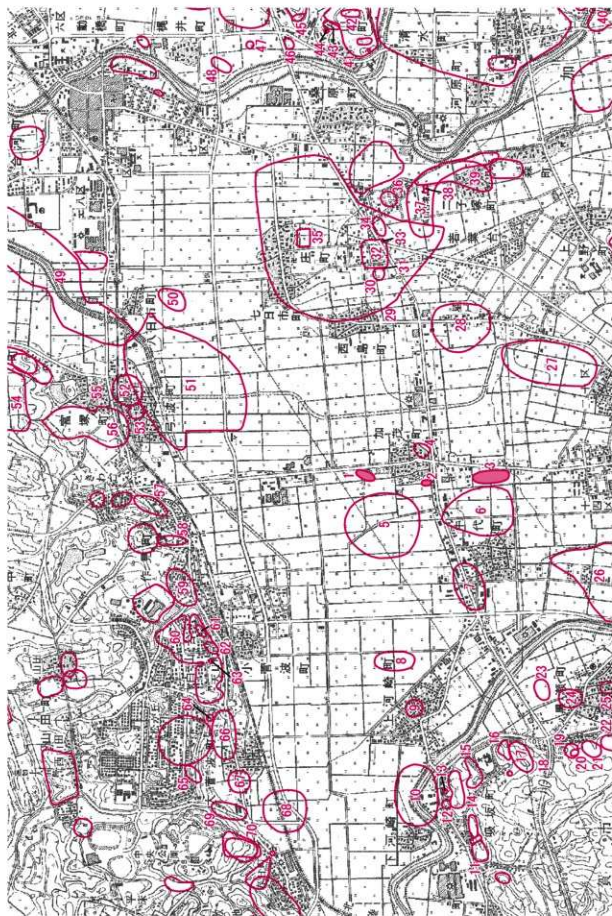
るいは郡家郷を加えた九郷が置かれ、古代より首長であった江沼臣氏は、律令体制の中で郡司として地方行政官に位置付けられる。当該遺跡の東方に至近する西島A遺跡(30)では、5棟の南北軸をもつ掘立柱建物を確認され、墨書土器の出土も伴うことから、官衙遺跡もしくは有力豪族の居宅であると推定される。また、動橋川右岸の平野に位置する松山C遺跡(47)においても、用水路や板扉を検出し、江沼を表すと考えられる「ヨネ」と読むことが可能な「米」墨書土器が多量に出土しており、江沼郡関係の官衙遺跡か江沼臣氏の居宅であると推定される。尚、当該地が属する郷については、あくまでも推測の域を出ないが、地理的な条件や遺跡の分布状況から、小町・西島町・二子塚町付近を郡家郷と推定し、南郷町・黒瀬町・保賀町付近に一郷の存在を認め、八郷のなかでも位置が不明である三枝郷として推定した場合、これら二郷と現在の山代温泉にあたる山背郷との中間地域、あるいは、いずれかの縁辺部に位置を定めることにならうか。

これまでの律令体制下の支配単位であった群一郷に代わり、特定の貴族や寺社による私領化に伴い、住民と土地をまとめ、一定の領域として管理する中世的な郷や庄が江沼郡にも現れ始める。当該地は位置関係から、山代温泉と南郷町・弓波町を結ぶ江沼平野の西半部一帯から橋立丘陵までを庄域とする山代庄に属していたと推定される。山代庄は12世紀末、持明院(藤原)基家の加賀国知行を契機に、江沼平野の最も主要な部分を占める諸郷を束ねて立庄され、中世前期に、園(藤原)家が庄務を伝領した。また、14世紀の内乱を迎え、その半ばが半済手段により守護領化され、守護富樫氏や奉行衆の知行を経て、一部は幕府料所となる。14世紀末から15世紀前半に、そのうちの山代本郷半済方は北野宮寺領、忌浪郷領家方は雲門庵領となり、本領主である園家と、守護富樫氏、幕府料所を預かる奉公衆、それに、北野天満宮・雲門庵などによって細分化され、複雑な分割領有の状態をとって、一向一揆の段階を迎えることとなる。江沼郡一揆の有力者の遺跡として、『江沼郡誌』には黒瀬覚道邸跡(25)、『加賀江沼志稿』には南郷の古城跡を、黒部掃部の居城〔黒瀬掃部邸跡(24)〕とする記述がみられる。

近世には、天正8年(1580)に織田勢による加賀国の一揆は平定され、慶長5年(1600)に江沼郡は前田氏の支配下に置かれた。寛永16年(1639)には前田家の支藩として大聖寺藩が成立し、以後230年を経て明治4年(1871)の廃藩置縣まで大聖寺藩は継続する。

#### 参考文献

- 石川考古学研究会 1978 「江沼古墳群分布調査報告」『石川考古学研究会々誌』第21号 石川考古学研究会  
 本田秀生 2002 「猫橋遺跡」石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター  
 字名調査委員会 2004 「加賀江沼の字名」江沼地方研究会  
 中村一也 1996 「保賀C遺跡」加賀市教育委員会  
 加賀市教育委員会事務局文化課 2011 「加賀市歴史文化基本構想」加賀市  
 加賀市史編纂委員会 1978 「加賀市史 通史 上巻」加賀市市役所  
 加賀市文化財総合活用事業実行・加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会 2014 「加賀市歴史文化学習帳Ⅰ 歴史編」  
 加賀市文化財総合活用事業実行委員会・おもてなし講座実行委員会  
 西 英晃 2002 「保賀遺跡」加賀市教育委員会  
 加賀市史編纂委員会 1978 「加賀市の歴史」加賀市  
 中西洋司 2001 「松山C遺跡」財団法人石川県埋蔵文化財センター  
 谷内明央 2013 「松山D遺跡」石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター  
 田嶋正和 1997 「第2章第6節 遺構からみた加賀国」『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』北陸中世土器研究会  
 田嶋明人・湯沢修平 1974 「加賀市二子塚遺跡群調査概報」石川県教育委員会



第3図 周辺の遺跡 (S=1/25,000)



番号	遺跡名	種別	時代	備考
1	加茂キツネ塚遺跡	集落	弥生・中世	
2	642560 加茂新高田遺跡	集落	古代	中墳(径12m)。
3	642600 加茂ボク生木ウツ遺跡	集落	古代	方墳(径11.5m)。
4	加茂フネドク遺跡	集落	古代	方墳(径12.5m)。
5	607100 加茂かり場遺跡	散佈地	古墳、須恵器、土師器、磁石、銅環、石環、平イーストストーンプレート一具上。	中墳(径11.5m)。一部埋没。
6	607200 中代B遺跡	散佈地	古墳、須恵器、土師器、磁石、銅環、石環、平イーストストーンプレート一具上。	長方墳(径21.5m)。墳頂部の大半が山道により崩す。
7	607300 中代A遺跡	散佈地	古代	方墳(径15.6m)。墳頂部の大半が山道により崩す。
8	641400 上河内遺跡	散佈地	古代	
9	610100 川崎野麻子跡	寺社	古代	
10	610000 下河内遺跡	散佈地	古代	須恵器、土師器出土。
11	610401 南郷B1号墳	古墳	古代	須恵器、土師器出土。
12	610402 南郷B2号墳	古墳	古代	中墳(径13m)。
13	610403 南郷B3号墳	古墳	古代	中墳(径13.1m)。
14	610404 南郷B4号墳	古墳	古代	方墳(径29m)。
15	610405 南郷B5号墳	古墳	古代	方墳(径21.1m)。
16	610406 南郷B6号墳	古墳	古代	方墳(径21.9m)。
17	610407 南郷B7号墳	古墳	古代	中墳(径13.5m)。
18	610408 南郷B8号墳	古墳	古代	前方方墳出土。
19	610409 南郷B9号墳	古墳	古代	方墳(径17.0m)。
20	610410 南郷B10号墳	古墳	古代	方墳(径19.1m)。
21	610411 南郷B11号墳	古墳	古代	方墳(径13.5m)。
22	609801 暖取B1号墳	古墳	古代	中墳(径10m)。
23	609802 暖取B2号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
24	609803 暖取B3号墳	古墳	古代	中墳(径13.2m)。
25	609804 暖取B4号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
26	609805 暖取B5号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
27	609806 暖取B6号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
28	609807 暖取B7号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
29	609808 暖取B8号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
30	609809 暖取B9号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
31	609810 暖取B10号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
32	609811 暖取B11号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
33	609812 暖取B12号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
34	609813 暖取B13号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
35	609814 暖取B14号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
36	609815 暖取B15号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
37	609816 暖取B16号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
38	609817 暖取B17号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
39	609818 暖取B18号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
40	609819 暖取B19号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
41	609820 暖取B20号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
42	609821 暖取B21号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
43	609822 暖取B22号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
44	609823 暖取B23号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
45	609824 暖取B24号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
46	609825 暖取B25号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
47	609826 暖取B26号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
48	609827 暖取B27号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
49	609828 暖取B28号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
50	609829 暖取B29号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
51	609830 暖取B30号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
52	609831 暖取B31号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
53	609832 暖取B32号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
54	609833 暖取B33号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
55	609834 暖取B34号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
56	609835 暖取B35号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
57	609836 暖取B36号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
58	609837 暖取B37号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
59	609838 暖取B38号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
60	609839 暖取B39号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
61	609840 暖取B40号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
62	609841 暖取B41号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
63	609842 暖取B42号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
64	609843 暖取B43号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
65	609844 暖取B44号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
66	609845 暖取B45号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
67	609846 暖取B46号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
68	609847 暖取B47号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
69	609848 暖取B48号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
70	609849 暖取B49号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
71	609850 暖取B50号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
72	609851 暖取B51号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
73	609852 暖取B52号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
74	609853 暖取B53号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
75	609854 暖取B54号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
76	609855 暖取B55号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
77	609856 暖取B56号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
78	609857 暖取B57号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
79	609858 暖取B58号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
80	609859 暖取B59号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
81	609860 暖取B60号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
82	609861 暖取B61号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
83	609862 暖取B62号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
84	609863 暖取B63号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
85	609864 暖取B64号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
86	609865 暖取B65号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
87	609866 暖取B66号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
88	609867 暖取B67号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
89	609868 暖取B68号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
90	609869 暖取B69号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
91	609870 暖取B70号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
92	609871 暖取B71号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
93	609872 暖取B72号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
94	609873 暖取B73号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
95	609874 暖取B74号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
96	609875 暖取B75号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
97	609876 暖取B76号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
98	609877 暖取B77号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
99	609878 暖取B78号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
100	609879 暖取B79号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
101	609880 暖取B80号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
102	609881 暖取B81号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
103	609882 暖取B82号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
104	609883 暖取B83号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
105	609884 暖取B84号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
106	609885 暖取B85号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
107	609886 暖取B86号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
108	609887 暖取B87号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
109	609888 暖取B88号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
110	609889 暖取B89号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
111	609890 暖取B90号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
112	609891 暖取B91号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
113	609892 暖取B92号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
114	609893 暖取B93号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
115	609894 暖取B94号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
116	609895 暖取B95号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
117	609896 暖取B96号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
118	609897 暖取B97号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
119	609898 暖取B98号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
120	609899 暖取B99号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
121	609900 暖取B100号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
122	609901 暖取B101号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
123	609902 暖取B102号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
124	609903 暖取B103号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
125	609904 暖取B104号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
126	609905 暖取B105号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
127	609906 暖取B106号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
128	609907 暖取B107号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
129	609908 暖取B108号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
130	609909 暖取B109号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
131	609910 暖取B110号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
132	609911 暖取B111号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
133	609912 暖取B112号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
134	609913 暖取B113号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
135	609914 暖取B114号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
136	609915 暖取B115号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
137	609916 暖取B116号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
138	609917 暖取B117号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
139	609918 暖取B118号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
140	609919 暖取B119号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
141	609920 暖取B120号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
142	609921 暖取B121号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
143	609922 暖取B122号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
144	609923 暖取B123号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
145	609924 暖取B124号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
146	609925 暖取B125号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
147	609926 暖取B126号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
148	609927 暖取B127号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
149	609928 暖取B128号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
150	609929 暖取B129号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
151	609930 暖取B130号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
152	609931 暖取B131号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
153	609932 暖取B132号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
154	609933 暖取B133号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
155	609934 暖取B134号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
156	609935 暖取B135号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
157	609936 暖取B136号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
158	609937 暖取B137号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
159	609938 暖取B138号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
160	609939 暖取B139号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
161	609940 暖取B140号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
162	609941 暖取B141号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
163	609942 暖取B142号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
164	609943 暖取B143号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
165	609944 暖取B144号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
166	609945 暖取B145号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
167	609946 暖取B146号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
168	609947 暖取B147号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
169	609948 暖取B148号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
170	609949 暖取B149号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
171	609950 暖取B150号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
172	609951 暖取B151号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
173	609952 暖取B152号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
174	609953 暖取B153号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
175	609954 暖取B154号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
176	609955 暖取B155号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
177	609956 暖取B156号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
178	609957 暖取B157号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
179	609958 暖取B158号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
180	609959 暖取B159号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
181	609960 暖取B160号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
182	609961 暖取B161号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
183	609962 暖取B162号墳	古墳	古代	中墳(径8.5m)。
184	60			



## 第3章 加茂キツネ塚遺跡

### 第1節 概 要

#### 1. 調査区の設定(第4図)

調査区域は加茂町集落北側約100～200mの水田域に位置する。

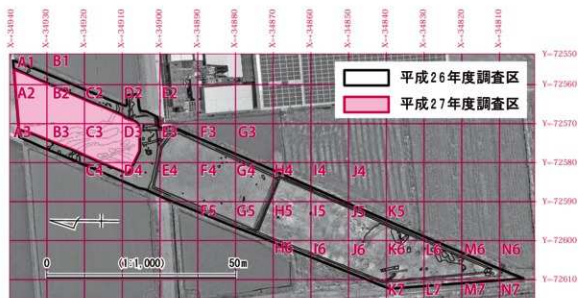
調査区全体には平面直角座標第Ⅶ系(世界測地系)に合わせた一辺10mの格子をかけ、北東隅のX＝＋34940とY＝－72550の交点を基点に、南北帯にはアルファベットを、東西帯にはアラビア数字を振り、これを組み合わせ細分区画名とした。また、調査は平成26・27年の2カ年にわたったが、平成26年度には調査区域の南西部約2／3および北東部約1／3区域のうち外周(水路敷設箇所)の調査を、平成27年度には残る北東部1／3区域の内部(車道箇所)の調査を行った。

#### 2. 基本層序(第5・6図)

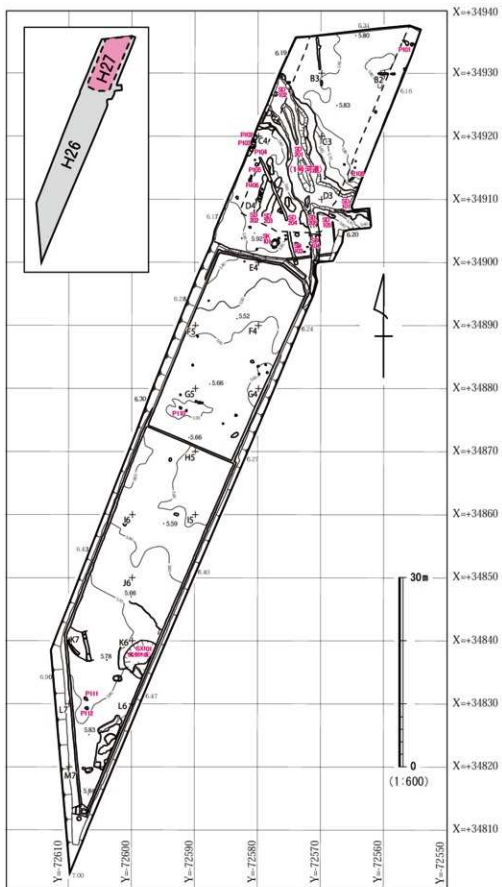
調査地周辺の現況地形は南東から北西に緩く下り、地表標高は約7.0～6.2mを測る。遺構検出面では南および北側が標高約5.8mと高みをなし、中央部のE4区あたりに向け緩く下り標高約5.4mを測る。調査地の堆積土壌を調査区外周壁で採図した断面A～D(第6図)で見ると、1層(耕作土)の下に約20cm厚で2層(暗灰～暗褐色粘土)が、その下に約20cm厚で3層(暗褐～黒褐色粘質土)が、その下に4層が約20cm厚で堆積する。地山土は青～黄褐色粘質土であり、中からの湧水が激しい。遺物は3層に少量含まれる。

#### 3. 遺構・遺物(第5図)

遺構は主に調査区北部に分布しており、土坑1基、自然河道1条、溝5条、風倒木痕1基、小穴などがある。遺構名は遺構略号に続き平成26年度は1〇〇と、平成27年度は2〇〇と振った。そのうち、幅2mの水路敷設箇所検出されたSD101・102はSD201を介し連結したことから、報告に際して1号河道と呼称した。また、SD104はSD205北側で1号河道に接続する溝となり、これはSD104・205と呼称して報告する。SD103・SD204も一連の溝である。LII型バンケースにして3箱の出土遺物は1号河

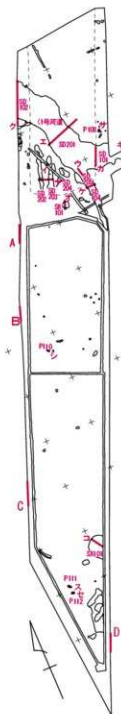


第4図 調査区・グリッド配置図



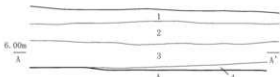
第5図 加茂キツネ塚遺跡調査区全体図

## 【断面採図箇所案内図】



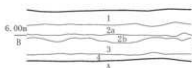
## 【調査区壁土層断面図】

## 断面A



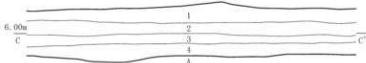
- |                                       |                  |
|---------------------------------------|------------------|
| 1 耕作土                                 | 4 暗灰色粘土          |
| 2 暗灰色粘土                               | A [地山土] 青色～黄褐色粘土 |
| 3 暗灰色粘土 (2層より黒味強くややしまり甘い、北側は下り層厚薄くなる) |                  |

## 断面B



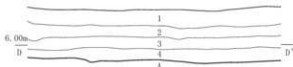
- |                      |
|----------------------|
| 1 耕作土                |
| 2a 黒褐色粘土 (断面Aの2層に相当) |
| 2b 灰色粘土 (断面Aの2層に相当)  |
| 3 茶褐色粘土 (断面Aの3層に相当)  |
| 4 褐色粘土               |
| A [地山土] 黄褐色粘質土       |

## 断面C



- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1 耕作土、床土          | 4 暗黄褐色粘土      |
| 2 暗褐色粘質土          | A [地山土] 黄褐色粘土 |
| 3 暗褐色粘質土 (土器破片含む) |               |

## 断面D



- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 1 耕作土 (暗灰色粘土)        | 4 茶褐色粘質土       |
| 2 暗褐色粘土              | A [地山土] 黄褐色粘質土 |
| 3 黒褐色粘質土 (断面Cの3層に相当) |                |

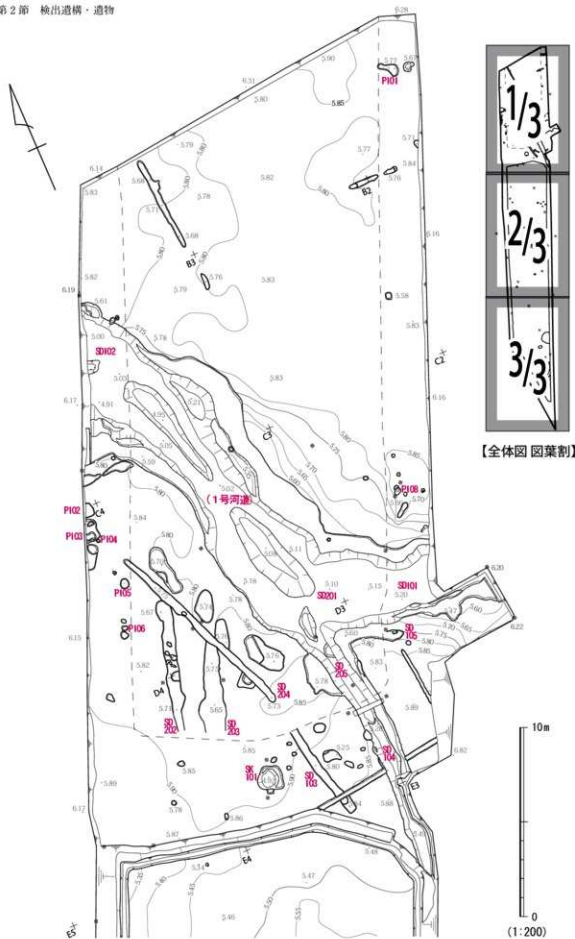


第6図 調査区壁土層断面図、土層断面採図箇所案内図

道出土が大方で、弥生時代後期後葉の土器を主とし、ほかに石器、加工木がある。他の遺構からは須恵器、土師器、珠洲焼が計十数点出土している。

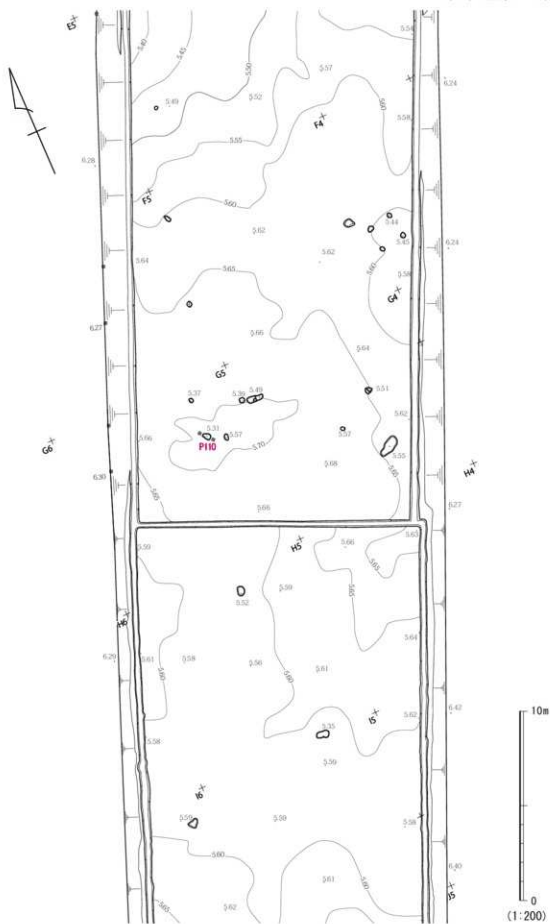
## 第2節 検出遺構・遺物

SK101 (第5・7・10図) 調査区北部、D3区に位置する。長辺1.3 m、短辺1.2 m、深さ95 cm、平面不整隅丸方形、断面逆台形を呈する土坑。覆土は濁暗青灰色粘土である。内部からは弥生土器とみられる細片1点が出土している。形状からみて貯蔵穴の可能性もある。

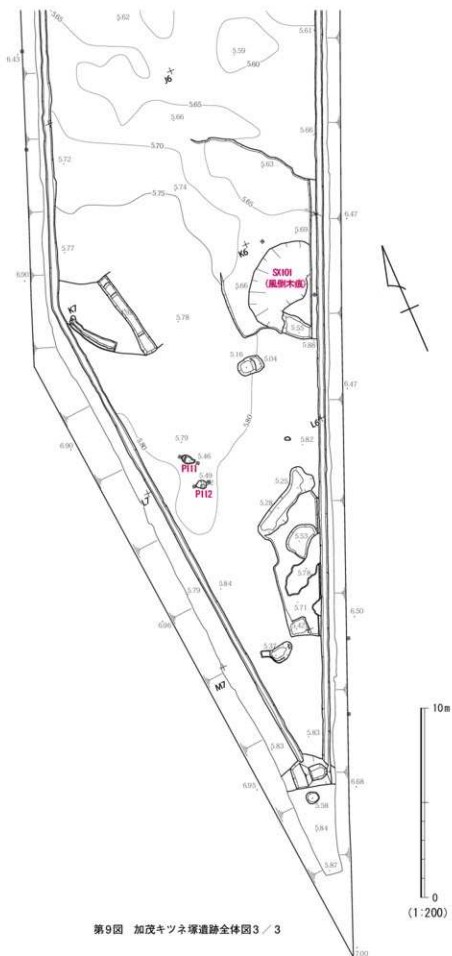


【全体図 図葉割】

第7図 加茂キツネ塚遺跡全体図1 / 3

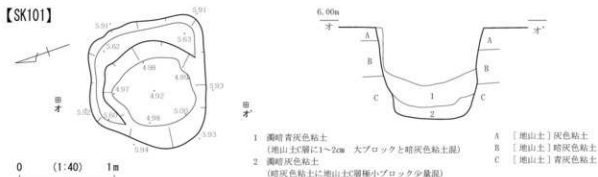


第8図 加茂キツネ塚遺跡全体図2 / 3



第9図 加茂キツネ塚遺跡全体図3 / 3





第10図 SK101遺構図

**1号河道(第5・7・11・12・16～19図)** 調査区北部に位置し現地調査時にSD101・102・201とした自然河道であり、報告に際し1号河道と呼称した。東側で西進するSD101から、SD201にSD205が接続する箇所まで北に屈曲、北側のSD102に向け蛇行気味に下る。上面全幅で5～6m、底面幅2.5～4m、深さ60～80cm、底面標高5m前後を測る。河道断面(第12図)をSD101(断面カ)・SD201(断面エ)・SD102(断面ク)の3箇所で採図したが、断面カ南岸、エ西岸、ク北岸では川岸がオーバーハング気味に立ち上がっており、縁を削る一定の水位と流量をもった河川であったことがうかがわれる。その堆積土には粘土、細砂、粗砂があり、砂層が埋没過程での時々川底堆積土とみられる。また、各断面の土層堆積状況をおおまかにみると、SD102箇所では南から北に、SD201では東から西に、SD101では南から北に河道が変遷し、次第に流路の屈曲度合いを強めていったことが推定される。SD201では河道を第12図上のように分割し遺物を取り上げた。第16～19図に示した出土土器は弥生時代後期後葉が主であり、装飾器台があることから終末期の土器も若干含まれるとみられる。51の磨製石斧が河道南肩上部(第11図断面採図ポイント・カ西)から出土したほかは、SD201細分区画中のN区とSD102が接する箇所、S1区中程、SD101箇所からの出土であり、しかも多くは河道底面に堆積した粗砂層中からと、遺物分布に偏りが認められる。46・47は検出出土の室町時代の土師器皿である。

**SD103・204(第5・7・11・13図)** 1号河道西側に位置し、SD202・203より新しい。幅20cm弱、深さ5cm、長さ17m以上を測る。出土遺物はない。畑等耕作にともなう溝であろう。

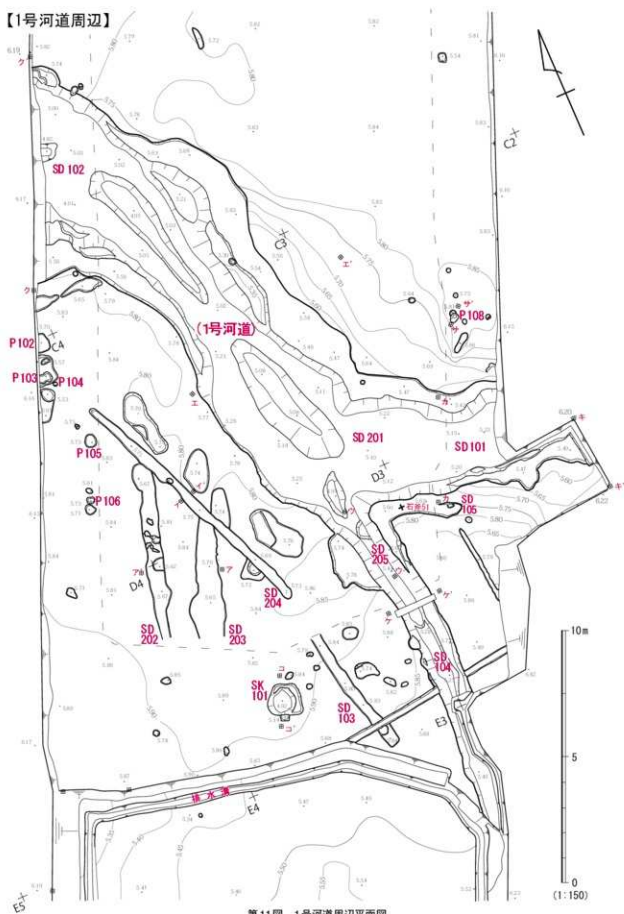
**SD104・205(第5・7・11・13・20図)** D3区で1号河道に流入する。幅1.5m、深さ60cm、南から北に緩く下り底面標高5.5m前後を測る。やや膨らむSD104箇所では断面碗形を、SD205箇所では断面逆台形を呈する。比較的水平ななす底面は、所々に長さ30～50cm、深さ15cmのくぼみ(第13図断面ケ7層、断面ウ中央部下箇所)が存在し、ここに地山土を多く含む土壌が堆積する。水流によりえぐられたものであろうか。本溝については、SD205箇所の整った壁面形状(図版5・5)からみて1号河道に連結させた水路跡の可能性がある。覆土をSD201との接続箇所の溝縦断面第13図ウでみると、9・10層はSD201覆土、5～8層がSD205覆土であり、最終的に1～4層によりSD201・205は一体的に埋没したものとみる。出土遺物は第20図58～61に示した。弥生時代後期後葉のものである。61の口縁部内面には沈線による渦巻きが2箇所、胴部外面中位にはジグザク状に1箇所加えられる。

**SD105(第5・7・11図)** SD101南西縁に位置する。幅20cm、深さ5cm、長さ30cm。弥生土器細片1点出土。性格不明。

**SD202(第5・7・11・13・20図)** 1号河道西側に位置し、南西―北東を向く。SD204より古い。幅70cm、深さ10cm、長さ7m。第20図57の平安時代の須恵器無台杯片が出土している。畑等耕作にともなう溝であろう。

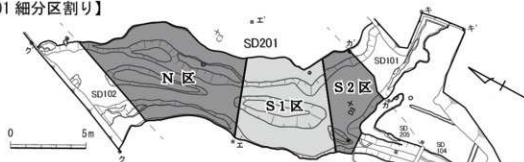
**SD203(第5・7・11・13図)** SD202の東50cmで、SD202よりわずかに東を向き並走する。SD204より古い。幅90cm、深さ10cm、長さ5m。出土遺物なし。畑等耕作にともなう溝であろう。

【1号河道周辺】

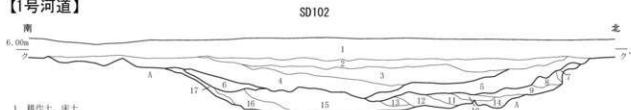


第11图 1号河道周辺平面图

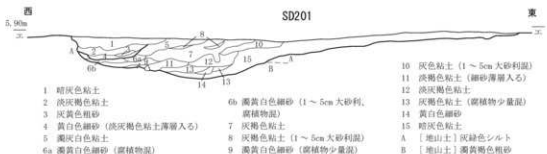
## 【SD201 細分区割り】



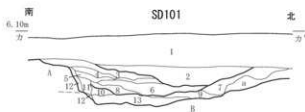
## 【1号河道】



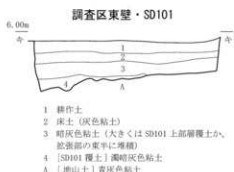
- |                      |                                     |                           |
|----------------------|-------------------------------------|---------------------------|
| 1 耕作土、床土             | 9 黄灰色粗砂（小砂利、粗砂、砂の互層、腐植物を含み中央では主となる） | 14 黄褐色粘土（腐植物、砂の互層）        |
| 2 暗灰色粘土              | 10 暗灰色粘土                            | 15 黄灰色粘土（暗灰色粘土の5mm大ブロック混） |
| 3 灰色粘土               | 11 黄暗灰色粘土（砂の薄層入る）                   | 16 黄暗灰色粘土                 |
| 4 暗灰色粘土（断面クでは最も黒い）   | 12 黄青灰色粗砂（小砂利、粗砂の互層、腐植物入る）          | 17 黄青灰色粘土（河川質の崩落土）        |
| 5 黄暗灰色粘土（砂、腐植物の薄層入る） | 13 黄青灰色粘土（砂の薄層入る）                   | A [地山土] 青灰色粘土             |
| 6 黄暗灰色粘土（砂、腐植物の薄層入る） |                                     |                           |
| 7 黄青灰色粘土（河川質の崩落土か）   |                                     |                           |
| 8 黄暗灰色粘土（腐植物混）       |                                     |                           |



- |                     |                          |                    |
|---------------------|--------------------------|--------------------|
| 1 暗灰色粘土             | 6b 黄黄白色細砂（1～5cm大砂利、腐植物混） | 10 灰色粘土（1～5cm大砂利混） |
| 2 淡灰色粘土             | 7 灰褐色粘土                  | 11 淡褐色粘土（細砂薄層入る）   |
| 3 灰黄色粗砂             | 8 灰褐色粘土（1～5cm大砂利混）       | 12 淡灰褐色粘土          |
| 4 黄白色細砂（淡灰褐色粘土薄層入る） | 9 黄黄白色細砂（腐植物少量混）         | 13 灰褐色粘土（腐植物少量混）   |
| 5 黄白色粘土             |                          | 14 黄白色細砂           |
| 6a 黄黄白色細砂（腐植物混）     |                          | 15 暗灰色粘土           |
|                     |                          | A [地山土] 灰緑色シルト     |
|                     |                          | B [地山土] 黄褐色粗砂      |



- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 耕作土、床土                    | 7 黄灰色粘土（青灰色粘土小ブロック少量混）      |
| 2 暗灰色粘土（やや明るい、灰色に近い）        | 8 黄暗灰色粘土（腐植物、暗灰色粘土、灰色砂の互層）  |
| 3 厚褐色粘土                     | 9 黄暗灰色粗砂（腐植物、暗灰色粘土、灰色砂の互層）  |
| 4 黄褐色粘土（灰色粘土と暗褐色粘土がブロック状に混） | 10 黄灰色粘土（青灰色粘土ブロック混）        |
| 5 暗灰色粘土（中央付近は明るい、灰色に近い）     | 11 黄青灰色粘土（灰色粘土に青灰色粘土ブロック混）  |
| 6 黄青灰色粗砂（腐植物、砂の互層）          | 12 黄青灰色粘土（青灰色粘土主体だが灰色粘土少量混） |
| 7 黄灰色粘土（青灰色粘土小ブロック少量混）      | 13 黄青灰色粗砂（腐植物、粗砂の互層）        |
| 8 黄暗灰色粘土（腐植物、暗灰色粘土、灰色砂の互層）  | A [地山土] 青灰色粘土               |
| 9 黄暗灰色粗砂（腐植物、暗灰色粘土、灰色砂の互層）  | B [地山土] 黄灰色砂～粗砂             |
| 10 黄灰色粘土（青灰色粘土ブロック混）        |                             |
| 11 黄青灰色粘土（灰色粘土に青灰色粘土ブロック混）  |                             |
| 12 黄青灰色粘土（青灰色粘土主体だが灰色粘土少量混） |                             |
| 13 黄青灰色粗砂（腐植物、粗砂の互層）        |                             |

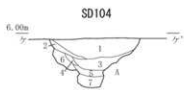


- |                                    |
|------------------------------------|
| 1 耕作土                              |
| 2 床土（灰色粘土）                         |
| 3 暗灰色粘土（大きくはSD101上部覆層土か、致強部の互平に腐植） |
| 4 [SD101] 覆土   黄暗灰色粘土              |
| A [地山土] 黄灰色粘土                      |

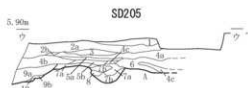
0 (1:60) 3m

第12図 1号河道断面図、SD201細分区割り

【SD104・205】



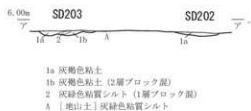
- 1 濃暗灰色粘土 (暗灰色粘土と灰色粘土が混ざる、断面ウ1・2層に同じ)
- 2 濃暗灰色粘土 (暗灰色粘土と灰色粘土の層、1層より灰色粘土主体)
- 3 青灰色粗砂 (粗砂、腐植物層の互層、断面ウ4a層に同じ)
- 4 灰色粘土
- 5 暗灰色粘土 (腐植物入る、断面ウ6層に同じ)
- 6 濃暗灰色粘土 (暗灰色粘土に地山土A層が2〜3cm大ブロック混)
- 7 濃暗灰色粘土 (暗灰色粘土に地山土A層ブロック混、一部に青灰色粗砂混)
- A [地山土] 青灰色粘土



- ※1〜4層：SI201・205 覆土  
 ※5〜8層：SI205 覆土  
 ※9・10層：SI201 覆土

- |                     |                             |                                |
|---------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 灰褐色粘土             | 4c 濃黄白色粗砂 (腐植物多量混、6層ブロック混)  | 8 灰褐色粘質土                       |
| 2a 灰色粘土             | 5a 茶褐色粘土 (粗砂・炭粒・腐植物混)       | 9a 褐色粘質土 (腐植物多量混、黄白色粗砂ブロック少量混) |
| 2b 灰色粘土 (褐色粘土ブロック混) | 5b 茶褐色粘土 (黄白色粗砂多量混)         | 9b 褐色粘質土 (腐植物多量混)              |
| 3 灰色粘土 (4層ブロック少量混)  | 6 暗褐色粘土 (粗砂少量混)             | 9c 褐色粘質土 (腐植物多量混)              |
| 4a 濃黄白色粗砂 (腐植物混)    | 7a 灰緑色シルト地山土 (褐色粘土ブロック少量混)  | 10 黄白色粗砂                       |
| 4b 濃黄白色粗砂 (腐植物多量混)  | 7b 灰緑色シルト地山土 (黄白色粗砂ブロック多量混) | A [地山土] 灰緑色シルト                 |

【SD202・SD203】



- 1a 灰褐色粘土
- 1b 灰褐色粘土 (2層ブロック混)
- 2 灰緑色粘質シルト (1層ブロック混)
- A [地山土] 灰緑色粘質シルト

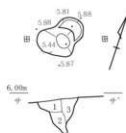
【SD204】



- 1 褐色粘質土
- A [地山土] 灰緑色粘質シルト

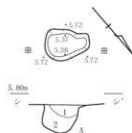
第13図 溝断面図

【P108】



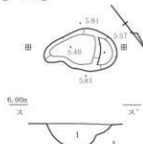
- 1 濃暗灰色粘土
- 2 濃灰色粘土
- 3 濃青灰色粘土

【P110】



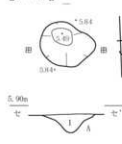
- 1 暗暗褐色粘土
- 2 暗灰色粘土 (しまり甘い)
- A [地山土] 黄灰褐色粘土

【P111】



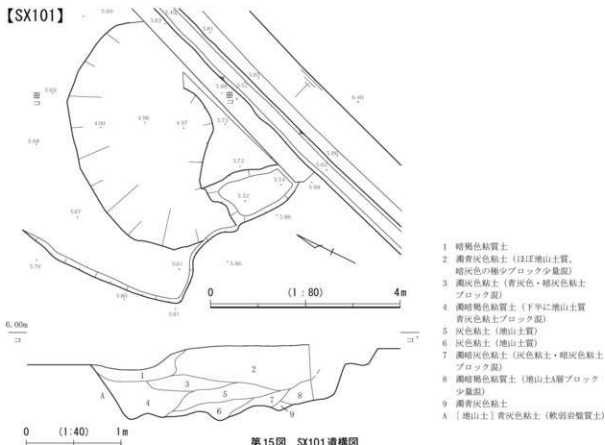
- 1 暗灰色粘土 (暗褐色粘土極少ブロック混)
- A [地山土] 黄灰色粘土 (しまり甘い)

【P112】



- 1 暗灰色粘土
- A [地山土] 黄灰色粘土

第14図 ビット遺構図



**SX101(第5・9・15図)** 調査区南部、K5区に位置し、調査区東壁に接する。直径3m、深さ80cm、不整形円形を呈する。検出面周縁および土坑底面に沿って暗色土が堆積する状況からみて風倒木痕であろう。出土遺物なし。なお、加茂ボケ生水ウラ遺跡や、調査地の南東750mに位置する加茂フルドウ遺跡でも風倒木痕が多数検出されている。

**小穴(第5・7～9・11・14・20図)** 調査区北東側の1号河道周辺や南西端で小穴が散発的に分布しており、遺物をともなったものをP102～108とした。遺構とみなせるものはない。P102出土の第20図62の弥生時代後期後葉の壺を円化したほかはいずれも小片である。

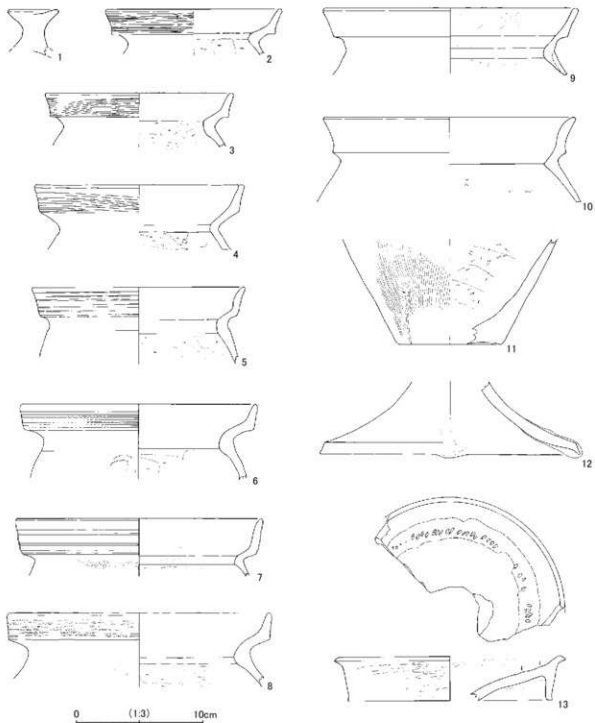
### 第3節 小 結

遺構は主に調査区北部に分布しており、弥生時代後期後葉の自然河道1条、同期の水路とみられる溝1条、同期頃の土坑1基、耕作溝4条、風倒木痕1基、小穴10数個を確認した。調査区周辺はほ場整備等によりいくらかの削平を受けているとみられるが、堆積土をみると遺物はあまり含まれておらず、希薄な遺構分布状況は旧状を反映したものと推定される。

検出遺構の主体は弥生時代後期後葉の1号河道と水路とみられるSD104・205である。遺物の多くは河道底面に堆積した粗砂層中からの出土であり、その分布は河道北西部と中程そして東端部と出土地点に偏りが認められた。この遺物分布の偏りからは、増水時等に上流部からもたらされたものが多いと推定される。調査区内での流路は東から下り、SD201で流れを北に向ける。SD102ではその北岸がえぐられていることから、調査区より下流では西へ向きを変える可能性がある。水路SD104・205は地形の傾斜に沿って南方から下り1号河道に流入する。調査区域は弥生集落のはずれにあたる

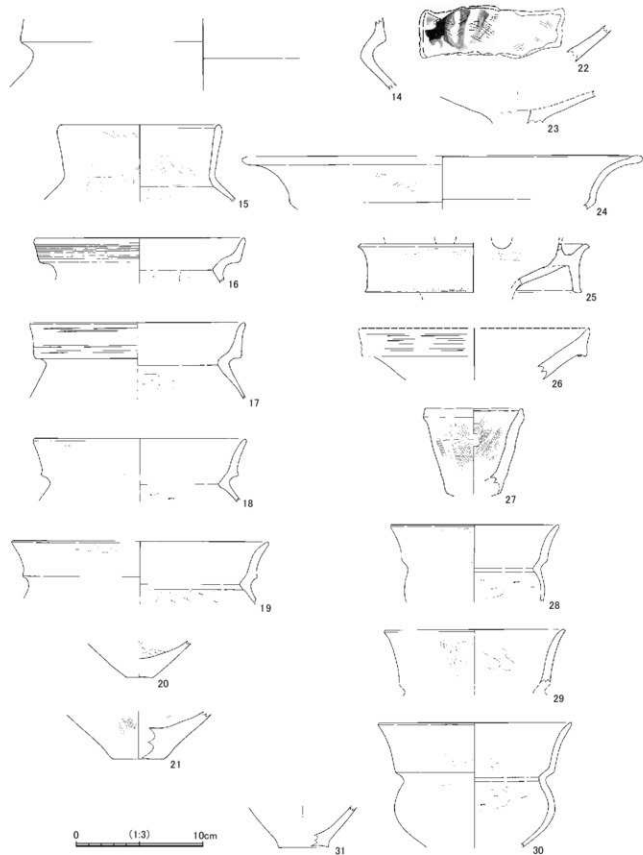
られるが、これら遺構・遺物を作出した弥生集落については、調査地南東方向の河道、水路上流部、現加茂集落の北の外れ辺り(第1図参照、現状で標高約7.2 m)に位置することを想定しておきたい。

【SD101】



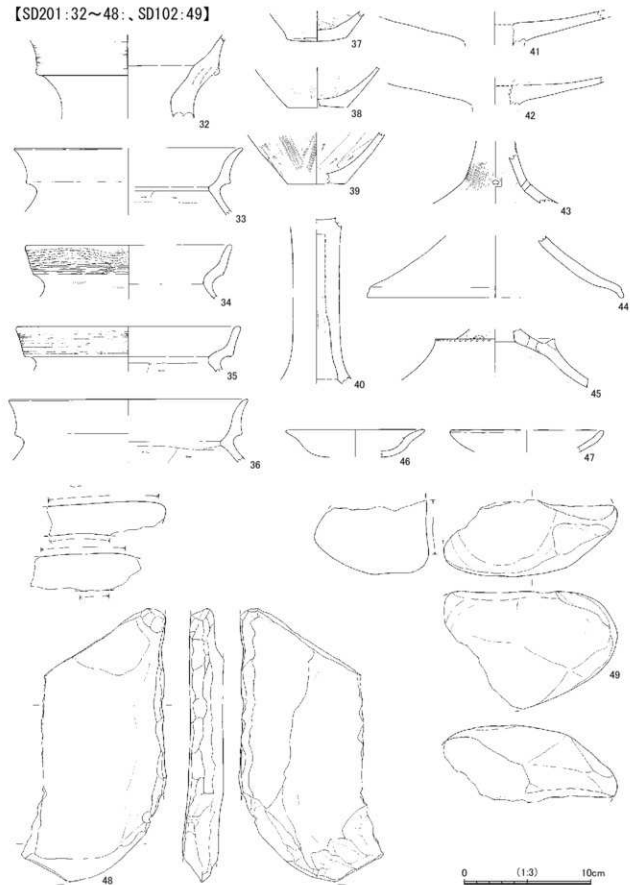
第16図 1号河道出土遺物1

【SD102】



第17図 1号河道出土遺物2

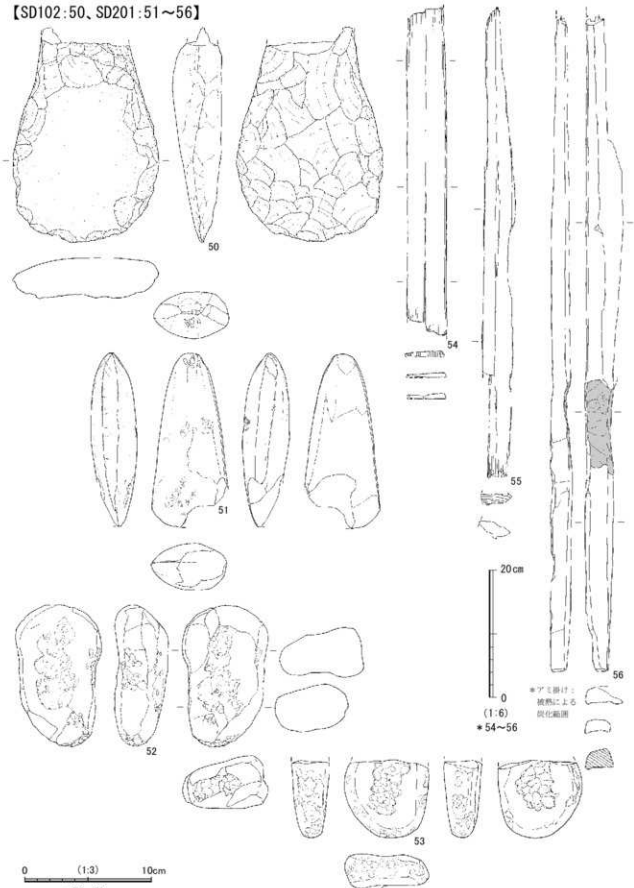
【SD201:32~48、SD102:49】



第18图 1号河道出土遺物3



【SD102:50、SD201:51~56】



第19図 1号河道出土遺物4

【SD202】

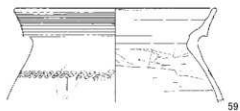


57

【SD205】



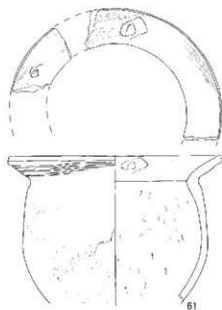
58



59



60



61

【P102】



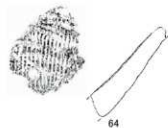
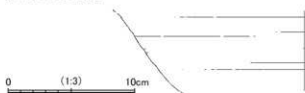
62

【排水溝】



63

【水田畦表探】



64

第20図 SD202ほか出土遺物

報告 番号	調査 年次	遺構 区 画位	種 類 器 種	口径 (cm) 底径 (cm)	器高 (cm) 重量 (g)	口縁残 底部残	色調 (内) 色調 (外)	備 考	図化 番号		
										調整 (内) 調整 (外)	
1	1次	SD101	赤生土器 高or高杯 (110?)				灰白 灰	良	ナデ ナデ		C2
2	1次	SD101	赤生土器 壺	13.8		2/12	純黄橙	良	ヨコナデ ケズリ		C9
3	1次	SD101	赤生土器 壺		14.7	1/12	純黄橙 純黄橙	良	擬回線7条 ヨコナデ ヨコナデ ケズリ	口縁外面輝付着	C11
4	1次	SD101	赤生土器 壺		16.5	1/12	純黄橙 灰白	良	ヨコナデ ケズリ 擬回線5条 ヨコナデ		C13
5	1次	SD101	赤生土器 壺		16.7	2/12	純黄橙	良	擬回線7条 ヨコナデ ナデ? 摩耗のため調整不明		C6
6	1次	SD101	赤生土器 壺		18.7	1/12	純黄橙 純黄橙	良	ヨコナデ ケズリ 擬回線6条 ヨコナデ	外面輝付着 弧状の沈殿文様あり	C8
7	1次	SD101	赤生土器 壺		20.1	小片	純黄	良	ヨコナデ ナデ ケズリ 擬回線5条 ヨコナデ ハケ	外面輝付着 内外面摩耗著しい	C14
8	1次	SD101	赤生土器 壺		20.6	1/12	焼灰	良	ヨコナデ ナデ ケズリ 擬回線6条 ヨコナデ ハケ 後ナデ	外面輝付着	C15
9	1次	SD101	赤生土器 壺		18.5	1/12	純黄橙 純橙	良	ナデ ケズリ 不明		C10
10	1次	SD101	赤生土器 壺		19.6	1/12	橙 橙	並	ヨコナデ ケズリ		C5
11	1次	SD101	赤生土器 壺		7.9		黒地 灰黄	良	ナデ ハケ ナデ		C12
12	1次	SD101	赤生土器 高杯		20.4	1/12	淡黄橙 淡黄橙	並	磨耗のため調整不明 摩耗のため調整不明	不明の付着物あり	C4
13	1次	SD101	赤生土器 炭焼器台				淡黄橙 淡黄橙	良	ミガキ ミガキ		C3
14	1次	SD102 遺構検出面	赤生土器 壺				純黄橙 純黄橙	良	摩耗のため調整不明 ヨコナデ(摩耗)		C30
15	1次	SD102	赤生土器 壺		12.5	1/12	灰黄地 灰黄地	良	ヨコナデ ナデ ケズリ ナデ ハケ		C24
16	1次	SD102	赤生土器 壺		16.5	2/12	純黄橙 純黄橙	良	ヨコナデ ケズリ 擬回線6条 ヨコナデ ハケ		C23
17	1次	SD102	赤生土器 壺		16.6	2/12	灰黄 淡黄	良	ヨコナデ ケズリ ハケ後ナデ		C26
18	1次	SD102	赤生土器 壺		17.0	5/12	純黄橙	良	ヨコナデ(摩耗) ケズリ 擬回線5条~(ほとんど摩耗) ヨコナデ	外面所々黒け跡 あり	C27
19	1次	SD102	赤生土器 壺		20.2	2/12	純黄橙 純黄橙	良	ヨコナデ ケズリ ヨコナデ ハケ後ナデ		C21
20	1次	SD102	赤生土器 壺?		2.0	12/12	純黄橙 焼灰	良	ケズリ ケズリ	摩耗のため調整不明 ナデ	C25
21	1次	SD102	赤生土器 壺?		4.0	2/12	黄灰 黄灰	良	ケズリ後ナデ ハケ後ナデ		C36
22	1次	SD102	赤生土器 高杯				純赤地 純黄橙	良	ミガキ ミガキ?摩耗のため調整不明	内面赤彩による 文様あり	C16
23	1次	SD102	赤生土器 高杯				灰黄 灰黄	良	ミガキ ナデ 調整		C19
24	1次	SD102	赤生土器 高杯		30.8	2/12	純黄 純黄橙	良	摩耗のため調整不明 ミガキ		C22
25	1次	SD102	赤生土器 炭焼器台				純黄 純黄橙	良	ヨコナデ 摩耗のため調整不明 ミガキ ヨコナデ ナデ		C20
26	1次	SD102	赤生土器 器台		(18.2)		純黄橙 純橙	良	摩耗のため調整不明 摩耗のため調整不明		C18
27	1次	SD102	赤生土器 鉢(小型土器)		7.6	9/12	黄灰 黄灰	良	ナデ ハケ後ミガキ ヨコナデ ハケ後ミガキ	外面沈殿文様あり 一部黒け?	C17
28	1次	SD102	赤生土器 鉢		13.2	2/12	純黄橙 純黄橙	良	ヨコナデ ケズリ ヨコナデ ハケ後ケズリ	外面輝付着	C28
29	1次	SD102	赤生土器 鉢		14.2	5/12	灰黄 灰黄	良	ナデ ヨコナデ ミガキ		C29
30	1次	SD102	赤生土器 鉢		15.2	5/12	淡黄 淡黄	良	ヨコナデ ミガキ ケズリ ナデ ヨコナデ		C31
31	1次	SD102	赤生土器 鉢?		3.8	2/12	淡黄橙 黒	良	ナデ 調整	摩耗のため調整不明	C34
32	2次	SD201 N 粗砂層	赤生土器 壺				純黄橙 純黄橙	良	摩耗のため調整不明 擬回線かすかに残す 摩耗のため調整不明		C45

第5表 加茂キツネ塚遺跡出土遺物観察表1

報告 番号	調査 年次	造 構 区 画位	種 類 器 種	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm) 重量(g)	口縁残 底部	色調(内) 色調(外)	使 成	調 整 (内)		備 考	図化 番号
									調 整 (外)			
33	2次	SD201	弥生土器			小片	純黄緑	良		ヨコナダ ケズリ		C46
		S1 粗砂層	壺				純黄緑			ヨコナダ		
34	2次	SD201	弥生土器	16.2		1/12	褐色	良		ヨコナダ ナデかき	外面一部煤付着	C41
		粗砂層	壺				褐色			飯田編6条 ヨコナダ ハケ		
35	2次	SD201	弥生土器	17.6		2/12	純黄緑	良		ヨコナダ ケズリ		C7
		S1 粗砂層	壺				純黄緑			飯田編12条 ヨコナダ		
36	2次	SD201	弥生土器	18.8		2/12	明褐色	良		ヨコナダ ケズリ		C47
		N 粗砂層	壺				明褐色			ヨコナダ		
37	2次	SD201	弥生土器		4.8	12/12	灰黄褐色	良		ケズリ	内面煤付着	C42
		N 粗砂層	壺?				灰黄褐色			ナデ		
38	2次	SD201	弥生土器		4.7	1/12	純黄緑	並		ケズリ ナデ		C9
		N 粗砂層	壺?				純黄緑			ハケメ		
39	2次	SD201	弥生土器		4.5	3/12	灰黄褐色	良		ケズリ		C43
		N 粗砂層	壺?				灰黄褐色			ハケ ナデ		
40	2次	SD201	弥生土器				褐色	良		摩耗のため調整不明		C39
		S1 粗砂層	高坏				純橙			摩耗のため調整不明		
41	2次	SD201	弥生土器				灰黄	並		摩耗のため調整不明		C40
		S1 粗砂層	高坏				灰黄			摩耗のため調整不明		
42	2次	SD201	弥生土器				純橙	良		ミガキ		C50
		N 粗砂層	高坏				純橙			摩耗		
43	2次	SD201	弥生土器				浅黄	良		ケズリ 浅ナデ	孔あり取不着	C41
		N 粗砂層	高坏				浅黄			ハケメ	外面煤付着	
44	2次	SD201	弥生土器		(20.0)	1/12	純橙	良		摩耗		C48
		N 粗砂層	高坏				純橙			摩耗		
45	2次	SD201	弥生土器				灰白	良		ナデ ハケメ	孔3ヶ所	C38
		S1 粗砂層	器台				浅黄			ミガキ キザミ		
46	2次	SD201	中世土器	10.7			橙	良		摩耗のため調整不明		D1
		N	皿				橙			摩耗のため調整不明		
47	2次	SD201	中世土器	(12.0)		2/12	純黄緑	良		摩耗のため調整不明		D3
		土層	皿				純黄緑			摩耗のため調整不明		
48	2次	SD201	石製品	最大長21.6	最大厚3.0							石4
		N 検出面	台石	最大幅11.5	813.75							
49	1次	SD102	石製品	最大長(13.8)	最大厚(9.4)							石2
			存石	最大幅(6.1)	829.9							
50	1次	SD102	石製品	残存長(17.0)	最大厚3.7							石1
			打製石斧	最大幅(11.6)	878.93							
51	2次	SD201	石製品	最大長(13.8)	最大厚3.7							石3
		D3 南岸層	磨製石斧	最大幅(6.0)	(373.35)							
52	2次	SD201	石製品	最大長11.3	最大厚4.2							石5
		S1 粗砂層	叩石	最大幅6.8	371.81							
53	2次	SD201	石製品	残存長(6.15)	最大厚3.0							石5
		S1 粗砂層	叩石	最大幅6.7	(363.25)							
54	2次	SD201	木製品	最大長(52.0)	最大厚(1.0)							木1
		底	板状木製品	最大幅(6.4)								
55	2次	SD201	木製品	最大長(74.7)	最大厚(2.8)							特木2
		底	板状木製品	最大幅(5.1)								
56	2次	SD201	木製品	最大長(104)	最大厚3.5							特木1
		底	棒状木製品	最大幅(6.1)								
57	2次	SD202	須恵器				灰	良		ロクロナダ		D2
			甌台坏	10.9			灰			ロクロナダ 回転ヘラ切り後ナデ		
58	2次	SD205	弥生土器	16.0		2/12	灰白	良		ヨコナダ ケズリ		C32
			壺				灰白			飯田編9条 ヨコナダ		
59	2次	SD205	弥生土器	15.8		7/12	明褐色	良		消し覆しのハケ ヨコナダ ケズリ	肩部ハケ状具による連続剥落	C37
		S1 粗砂層	壺				灰黄			飯田編8条 ヨコナダ ハケ		
60	2次	SD205	弥生土器	17.3		2/12	灰黄	良		ナデ ケズリ		C35
		S1 粗砂層	壺				灰黄			飯田編8条 ハケ ナデ		
61	2次	SD205	弥生土器	16.8		3/12	灰黄	良		ハケメ ケズリ	口縁内面渦巻き状・胴部外面シダダツグ状沈着文様あり、外面煤付着	C33
		S1 粗砂層	壺				灰黄			飯田編5条 ヨコナダ ハケメ ミガキ		
62	1次	P102	弥生土器	(17.7)		1/12	灰黄褐色	良		ヨコナダ		C1
			壺				純黄緑			飯田編4条		
63	1次	遺構検出面排水溝	須恵器				灰	良		摩耗のため調整不明		D4
			有台坏	10.0		2/12	灰			ロクロナダ		
64	1次	表採田畦	珠洲焼				灰	良		おしろ目9条	内外面とも摩耗顕著しい	D5
			すり鉢				灰			ロクロナダ		

第6表 加茂キツネ塚遺跡出土遺物観察表2

## 第4章 加茂新高遺跡

### 第1節 概 要

#### 1. 調査区の設定 (第21図)

調査区域は加茂町集落西側に接した水田域に位置する。調査前において調査区東部は農道、西部では、B区が水田、A・C区は水田上に約1.5m盛土され駐車場・納屋として利用されていた。

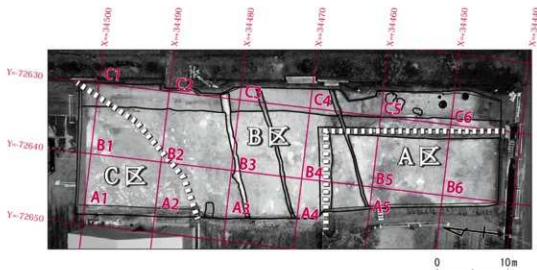
調査区全体には平面直角座標第Ⅶ系(世界測地系)に合わせた一辺10mの格子をかけ、北西隅の $X=+34500$ と $Y=72650$ の交点を基点に、東西帯にはアルファベットを、南北帯にはアラビア数字を振り、これを組み合わせ細分区画名とした。また、東西延長約60mの調査区は排土先および隣接納屋からの出入り口確保の制約から大きく3区に大別、A・B・C区と呼称し、B→A・C区の順に調査を進めた。

#### 2. 基本層序 (第22図)

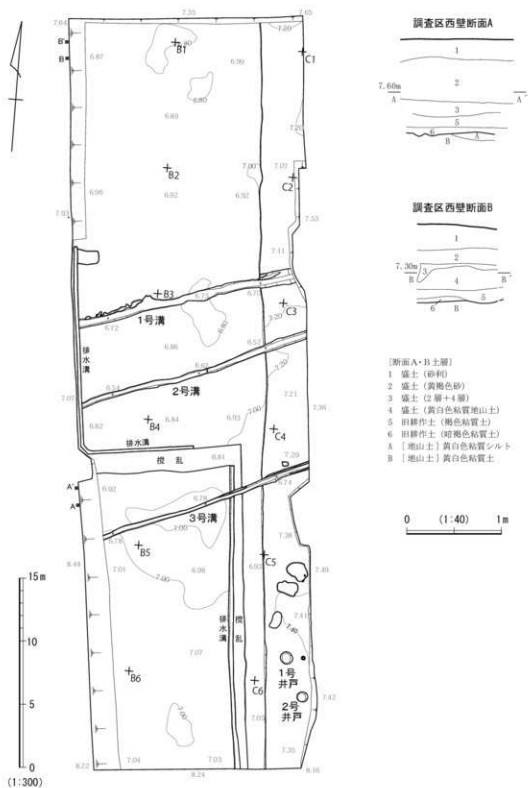
調査地周辺の現況地形は南から西および北に緩く下り、調査地において地表標高は7.4m前後を測る。また、水田域では耕作土直下で黄白色の地山土が露出し、その標高は7.0～6.8m。農道下箇所も同じく削平されるが、水田箇所よりは10～60cm程高位の7.4～7.1mで地山土となり、削平度合いは若干少ない。それでも調査区東に接する畑地では標高7.7m前後に地山土が認められることから、一帯はほ場整備事業等により大幅な削平を受けていることが知られた。第22図にA(A区)・B(C区)の2箇所の調査区西壁土層堆積状況を示したが、1～4層の新しい盛土の下で盛土造成以前の水田耕作土、床土である5・6層が約20cm厚で堆積し、その下が地山土A層(黄白色粘質シルト)、その下位でやや硬質の地山土B層(黄白色粘質土)となる。また、B区西側では小円礫を含む砂礫層が地山土となっていた。A区では2基の井戸を検出したがその底面では標高6.7～6.8mで湧水の激しい砂礫層を確認した。B区の砂礫層と標高が近似しており、調査地一帯に分布する一連の地山土層の可能性が高い。

#### 3. 遺構・遺物

A区東部で中世期とみられる素掘り井戸2基を、A区北部からB区においては、南西から北東に緩やかに下る溝3条を検出した。遺物は土師器、須恵器、陶磁器、石・木製品等が合計32点出土した。



第21図 調査区割り、グリッド配置図



第22図 加祝新高遺跡調査区全体図、調査区西壁断面図

## 第2節 検出遺構・遺物

**1号井戸**(第22・23・24図) A区東部の農道下箇所で検出した。円筒形の素掘り井戸であり、直径100cm、深さ85cmを測る。覆土は褐色粘質土基層の比較的単純層で短期に埋め戻されたとみられる。隣接する畑で認められる地山土レベルからみて30cmは削平されていると推測する。よくしまる地山土A・B層を掘り抜き、砂礫土C層に10cm掘り込まれる。C層からの湧水は激しく、排水するも明朝には上面まで水が溜まる状態であった。出土遺物は第24図に示した。1は古墳時代中期頃とみられる円筒埴輪である。土師質で淡燈褐色を呈し焼成は堅緻である。器厚1cm、内外をハケ調整する。中窪みする凸帯は高さ1cm、幅は1.7cm前後で一様でなく雑な作りである。流込品であろう。2は長さ26.5cmの箸状木製品であり、3も箸状木製品断片である。時期を決定できる遺物はないか、形状からみて中世の所産としておきたい。

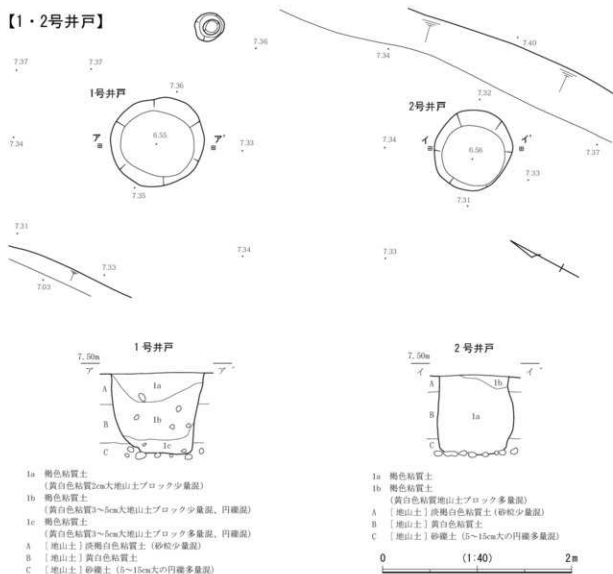
**2号井戸**(第22・23図) 1号井戸の2.5m南東に位置する。円筒形の素掘り井戸であり、直径75cm、深さ80cm、壁面の一部がオーバーハング形状をなす。1号井戸と同じく地山土C層まで掘り込まれ湧水が激しい。覆土は1号井戸と同じく褐色粘質土基層の単純層であり短期に埋め戻されたとみられる。出土遺物はないが1号井戸と形状、覆土が類似し近接時期の所産であろう。

**1号溝**(第22・25～27図) B区に位置する。南西から北東にわずかに下りながら調査区を斜行する。水路とみられ、長さ17m以上。断面は楕円形を呈し、比較的遺存の良い農道下箇所で幅120cm、深さ42cmを測る。第26図断面エの3a層より上面が削平されており、井戸と同様30cm程度は削平されているものとみられる。出土遺物は第27図4～11に示した。4は埴輪であり、底部として図化した円筒埴輪等の口縁部の可能性もある。断面淡灰色を呈し堅緻な須恵質だが、器表は淡橙色で軟質な印象を受ける。器厚1cm、内外をハケおよびナゲ調整する。古墳時代後期頃のものか。5は土師器無台椀、6は溝下半出土の7世紀前半頃の須恵器高環、7は須恵器甕体部、8は灰胎陶器皿、9は14世紀後半～15世紀代の青磁碗、10は近世以降の瀬戸美濃鉢、11は砥石である。ほかに土師器、須恵器片、加賀焼甕片が計10点出土している。出土遺物は古墳時代から近世あるいは近代までの幅を持ちいずれも細片であることから、直截に本遺構の帰属年代は決定しがたいが、主体遺物からみて、中世以降の所産としておきたい。

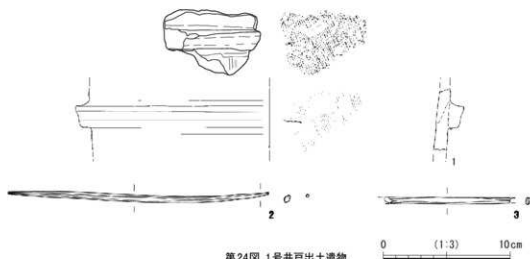
**2号溝**(第22・25～27図) B区に位置する。南西から北東にわずかに下りながら調査区を斜行する。水路とみられる。箱堀りをなし、長さ17m以上、比較的遺存の良い農道下箇所で上幅64cm、底幅30cm、深さ68cmを計る。断面形状の類似する3号溝とは約10m間隔を置いて並走する。30cm程度は削平されているものとみられる。地山土深くまで大幅に削平される西半部では、湧水によりベース土が軟弱化し溝壁面が内傾する(断面カ)。覆土は4層以下はしまりが甘く、そのうち4層は灰白色砂、5層には4層が多く混ざり水流にともなう堆積土と推定される。上位の1～3層はしまりをもち埋め戻し土の可能性がある。第27図12は検出面で出土した中世の加賀焼すり鉢である。体下半部にケズリを加える。ほかに須恵器、加賀焼甕片各1点が出土している。本遺構も年代を決定しがたいが中世以降の所産としておきたい。

**3号溝**(第22・25～27図) A区北部からB区に位置する。南西から北東にわずかに下りながら調査区を斜行する。水路とみられる。長さ17m以上。箱堀りをなすが2号溝より幅が狭く、比較的遺存の良い農道下箇所では北壁が底面より30cm上で段をなす。上幅58cm、底面幅18cm、深さ60cmを測る。30cm程度は削平されているとみられる。2号溝と同じく西半部では溝壁面が土圧により内傾する(第

【1・2号井戸】



第23図 1・2号井戸遺構図

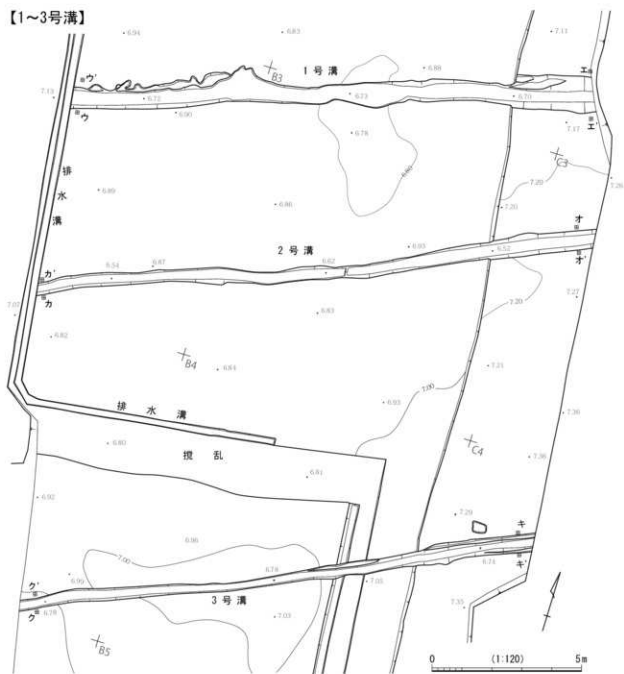


第24図 1号井戸出土遺物



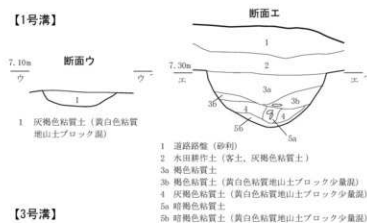
26図(断面ク)。覆土はしまりを持ち2号溝3層に類似する。出土遺物は第27図13～15に示した。13は土師器高杯、14は7世紀第1四半期の須恵器坏身、15は古代の須恵器坏身である。ほか土師器片4点が出土している。時期については、遺構の配置や形状、覆土の類似から2号溝と並存あるいは近接した時期の所産であろう。

## 【1～3号溝】



第25図 1～3号溝平面図

【1号溝】



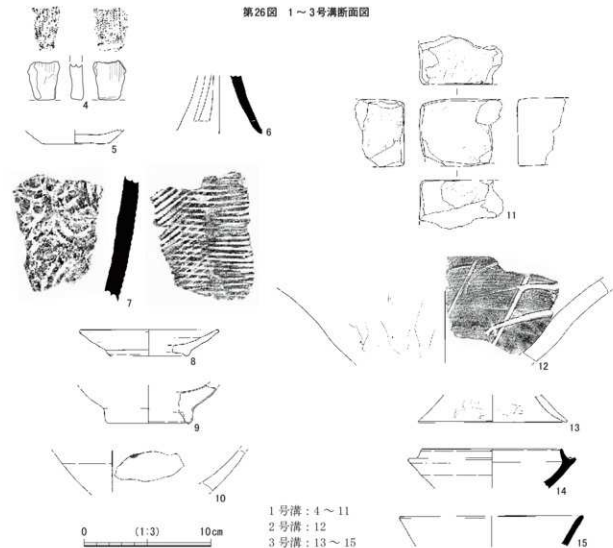
【2号溝】



【3号溝】



第26図 1～3号溝断面図



第27図 1～3号溝出土遺物

## 第3節 小 結

調査の結果、中世とみられる素掘り井戸2基、中世以降の溝3条のほか小穴数個を確認した。

調査地周辺は、ほ場整備等により30～70cm程度の削平を受けており旧状は明らかにしがたいが、周辺地形からみて井戸を伴う中世集落の主体は、より比高の高い調査地東側の加茂集落域にあると推定される。また、溝からは古墳時代終末～古代の土師器、須臾器が出土しており、周辺に該期の集落が存在することも推定される。さらに、細片ばかり32点の出土品の中に古墳時代中期あるいは後期かとみられる埴輪片2点が含まれた。本遺跡の立地する江沼盆地では盆地内を貫流する動橋川、大型寺川、八日市川水系沿いに約350基の古墳が確認されている(石川考古学研究会 1978)。加茂町周辺では西方約1.5kmの大型寺川を見下ろす丘陵上に黒瀬・吸坂・南郷古墳群が、東方約2kmの動橋川沿いには二子塚古墳群が築かれている。特に二子塚古墳群では単独墳と考えられていた狐山古墳(国指定史跡)周囲の水田下から33基が発見され、100基を超える古墳が分布することが推定されている(田嶋・湯尻 1974)。2点の埴輪片は、本遺跡周辺においても古墳が存在する可能性を示唆する貴重な資料である。

報告 番号	地 区 遺 構	種 類 形 種	口径(cm) 底径(28.4)	器高(cm) 底重(g)	口縁残 底面残	色調(内) 色調(外)	焼 成	調 整 (内)		備 考	図化 番号
								調整(内)	調整(外)		
1	A区 1号井戸	土製品	直径	厚1.0		残黄橙 残黄橙	良	ハケ			D1
		円筒埴輪						ハケ、ナデ			
2	A区 1号井戸	木製品	長	26.5							木1
		箸状木製品	幅	0.6							
3	A区 1号井戸	木製品	残存長	10.0							木2
		箸状木製品	幅	0.5							
4	B区 1号溝	土製品	厚	1.0		淡黄	良	ハケ、ナデ			D12
		円筒埴輪				淡黄		ハケ、ナデ			
5	B区 1号溝西側	土師器				淡黄	良	ナデ			D11
		黒石輪	5.4		5/12	淡黄		ナデ			
6	B区 1号溝東側	須臾器				灰	良	クロコナデ		三方透 外面降灰あり	D7
		高坏				灰		クロコナデ			
7	B区 1号溝断面E33層	須臾器				灰白	良	当て良(同心円状)		内面一部に自然軸小かる	D8
		鏝				灰		タタキ(平行)			
8	B区 1号溝	灰輪陶器	10.7	2.1	1/12上			クロコナデ		軸葉：灰輪	D2
			5.8		3/12			クロコナデ			
9	B区 1号溝	青磁								産地：中国、軸：青磁輪 軸葉色調：緑灰 内外面貫入あり 胎土色調：灰白	D6
		碗	6.6		1/12						
10	B区 1号溝	陶器								産地：瀬戸集落、軸葉：灰輪 軸葉色調：黄オリーブ灰 内外面貫入あり 胎土色調：黄灰	D9
		鉢									
11	B区 1号溝東側	石製品	残存長	5.4	厚3.9						石1
		砥石	幅	6.6	(144.9)						
12	B区 2号溝東側検出面	加賀焼				青灰	良	クロコナデ			D5
		すり鉢				暗青灰		クロコナデ、ケズリ			
13	A区 3号溝	土師器				1/12上	並	樽		ヨコナデ、ケズリ	D4
		高坏	11.6			樽		ミタキ			
14	A区 3号溝	須臾器	11.0			灰	良	クロコナデ			D3
		坏				灰		クロコナデ			
15	A区 3号溝	須臾器	(14.4)			1/12上	良	灰			D10
		坏				暗青灰		クロコナデ			

第7表 出土遺物観察表

## 第5章 加茂ボケ生水ウラ遺跡

### 第1節 概 要

#### 1. 調査区の設定 (第28図)

調査地は、東西幅16m、南北長237mの規模である。第1次調査では、第1章で述べたようにいくつかの制約があり、個々の調査区を小さくかつ飛び地状に設定せざるを得ない状況であった。そのため表土除去作業が可能な場所から着手し、その順番に片仮名でイロハ順に振り調査区名とした。なお、平成27年度に実施された第2次の調査区は、特に調査区名をつけていないことから本報告書では便宜的にH27区と呼称する。

グリッド杭は、南北ラインの北から南へ10m毎にアラビア数字を、東西ラインは西から東へ10m毎にアルファベットを付し、基点を10m四方の南西隅に設定した。

遺構は掘立柱建物(SB)、土坑(SK)、溝(SD)、柱穴・小穴(P)、不明遺構、風倒木痕等(SX)などの略号を使用した。略号の番号については、ト・イル区は1～10番台、チ・ワ・ロ区100番台、ホ・ヨ・リ区200番台、ニ・ツ・ヌ区300番台、ヘ区400番台、ヲ区500番台、カ区600番台、ネ・タ・H27区700番台を用いており、調査区をまたぐ遺構は、先に着手した番号を優先している。出土遺物の取り上げは区名と遺構番号を基本とした。

第1次調査の表土除去作業は、大きく4回に分けて実施し、1回目はイ～ヘ区、2回目はト～ヌ区、3回目はル～ヨ区、4回目はタ～ネ区である。基本的にこの分け方により、それぞれ遺構検出・掘削、実測、空中写真測量までの各作業を進めた。

第2次調査では、第1次調査終了時の打ち合せで不要とされていた仮設農道が調査地内に新設されていたが、地元との協議により調査期間中は撤去することになった。表土除去後は、人力による遺構の検出・掘削を実施し、必要に応じて断面図作成や写真撮影を行った。遺構掘削完了後は、ラジコンヘリによる空中写真測量を実施した。

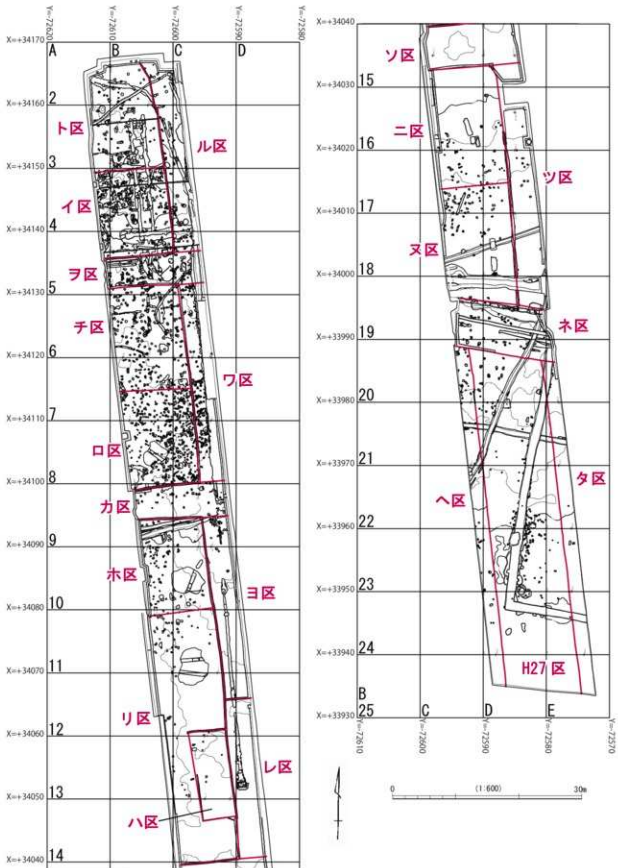
#### 2. 基本層序 (第29図)

調査区内の標高は、南からH27区E24グリッド付近11m、ヌ区D18グリッド付近10.5m、ニ区D15グリッド付近10m、ホ区C9グリッド付近9.6m、ル区C3グリッド付近9m、最も低い地点は、ル区北東隅で8.8mとなっており、全体的に南から北へ下降している。南端と北端の最大高低差は2.2mである。

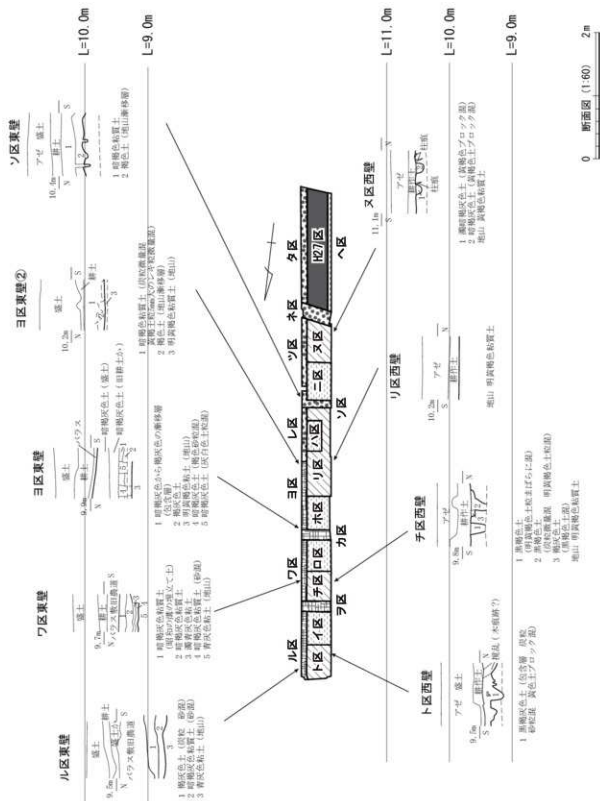
遺跡周辺は過去に耕地整理が行われており、大部分の包含層と地山の一部が削平されている。東西の両壁で包含層を確認できたのは、調査区中ほどのソ・ニ・ツ区と北端のト・ル区のみで、層序は上から盛土・耕作土の下位にソ区周辺では暗褐色粘質土、ト・ル区では黒褐色土色の包含層が堆積している。遺物はどちらにもほとんど含まれない。

地山は、ト・ル区の北側が青灰色シルトとなっており、地下水位が高く常に水が染み出ている状況であった。他の地区では、耕作土直下に黄褐～明黄褐色粘質土の地山がみられ、ヘ・タ・H27区のD22-E22グリッドライン付近で現水田区画に伴う削平跡が段差として確認できた。ネ区は東西方向の農道があった場所で、農道と同方向にのびる溝がみられた。溝には土管が埋設されており、昭和期に使用されていたものだろう。この農道を境に北側の水田区画はさらに一段低く削平されている。

ニ区とヌ区の境D16S4グリッド付近から標高が急に下がり始め、旧地形及び包含層を確認すること



第28図 調査区割り、グリッド配置図



第29図 調査区壁土層断面図

ができる。ル・ワ・ヨ区の壁断面では昭和期の農道跡が見られる。調査区東辺付近にのびる溝はこれに付属したものと農道下の2条あったようである。これより北のト・ル区までは北に標高を下げつつ、東側も低い地形となっている。文化財課の分布調査では、北側調査区外の宅地から国道8号まではさらに地形が下り湿地状であったことから、遺跡範囲は宅地手前の舗装道路辺りまでと推定される。

なお、本遺跡名は字名から取ったものである。ツ区の東側隣接地には殿様生水という自噴井があり、現在も水が湧き出ている。これが「ボケ生水」を指すのか定かではないが、周辺(第1図参照)には他にも中納言様清水(殿様生水と混同か)・めくら生水・足洗い生水などの湧水を示す字名がみられることから、付近は地下水位が高い湧水地帯と考えられる。

### 3. 遺構・遺物

前述したとおり耕地整理による削平は地山まで及んでおり、失われた遺構もあると考えられるが、確認できたものは調査区の北部と南部にまとまっている。北部では、ホ区以北の弥生時代終末期から古墳時代中期頃の土坑4基、溝5条、奈良時代の小穴1基、平安時代の土坑1基、鎌倉時代の掘立柱建物7棟、井戸1基、竪穴状遺構1基などを検出した。南部では、ヌ・ツ区以南で検出した近世以降とみられる溝5条を検出した。中央部は遺構が少ない。他に遺構ではないが風倒木痕を十数箇所で見出した。いずれも遺物の出土がないため時期は不明である。

遺物は調査面積に比べて少なく、LⅡ型パンケースで第1次調査3箱、第2次調査1箱であった。

## 第2節 検出遺構・遺物

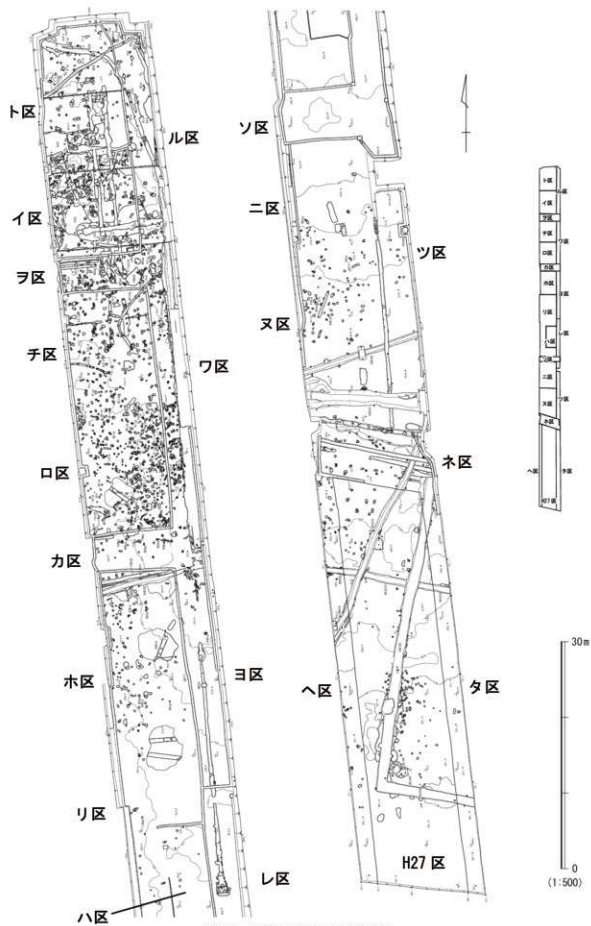
### 1. 掘立柱建物

**SB1**(第36図) ト区B2グリッド付近で検出した。調査区北端に位置し、南西から北東に向けて低くなる地点にある。掘立柱建物は2間四方の総柱であるが、北側にのびる可能性が高い。北西-南東方向3.3m、北東-南西方向2.9m、柱間は1.4~1.8mとなっており不揃いである。北西-南東方向を主軸とした場合は西へ23°振っている。柱穴は径25~40cmほどの円形を呈し、深さは15~40cmである。地山の青灰色シルトは軟弱で、10cmほど掘り下げると水が染み出てくる状況であった。柱穴からの出土遺物はないが、東西辺の延長3mの位置にSE1があり同時期の遺構であろう。

**SB2**(第37図) ト・ル区B2グリッドで検出した。調査区北端の最も低い場所にある2間四方またはそれ以上の側柱建物とみられる。北東側が調査区外へのびる可能性があり、北東-南西方向3.2m、北西-南東方向2.4m、柱間は桁行方向1.6m、梁行1.2mとなっている。柱穴は径30cmほどの円形または楕円形を呈し、深さは15~20cmである。

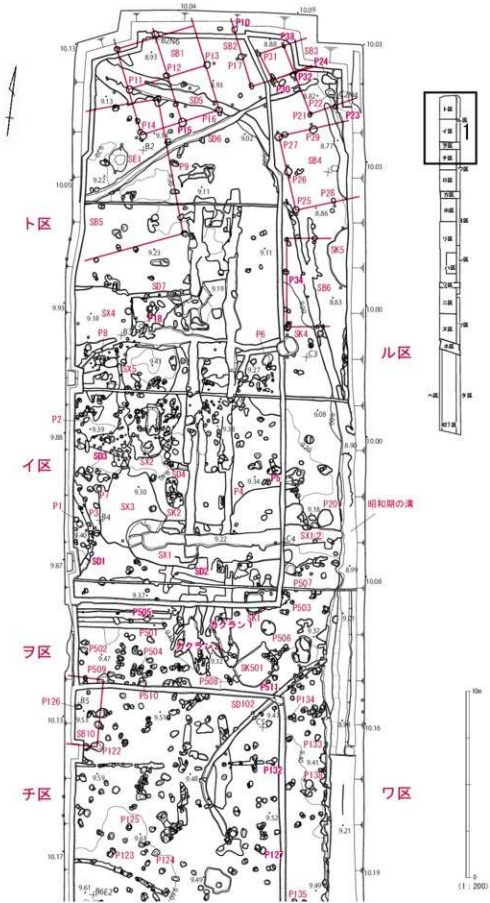
**SB3**(第37図) ル区C2グリッド付近で検出した。SB2と部分的に重なる位置にあり、現場ではSB2の一部と考えていたが、測量図等で検討した結果、柱穴の配置が合わないことと柱穴の径が20cmほどでSB2のそれより一回り小さいことから別の建物と推定した。少し離れた位置にあるP21・23も同規模であり、建物の一部としての可能性がある。

**SB4**(第37・48図) ル区C2グリッド付近で検出した。調査区内では2×1間分を確認したが、東側が調査区外へのびる可能性がある。側柱建物とみられ南-北方向4m、東-西方向2m、柱間は2mとなっている。柱穴は北辺P27・29が径40cm、他は30cmほどで円形を呈する。深さは北辺P27が32cm、P29が18cm、他は5~10cmで南辺の2基が揃って浅くなっている。P29から12の弥生土器が出土しているが、建物軸はSB1などに近いことから混入とみられる。

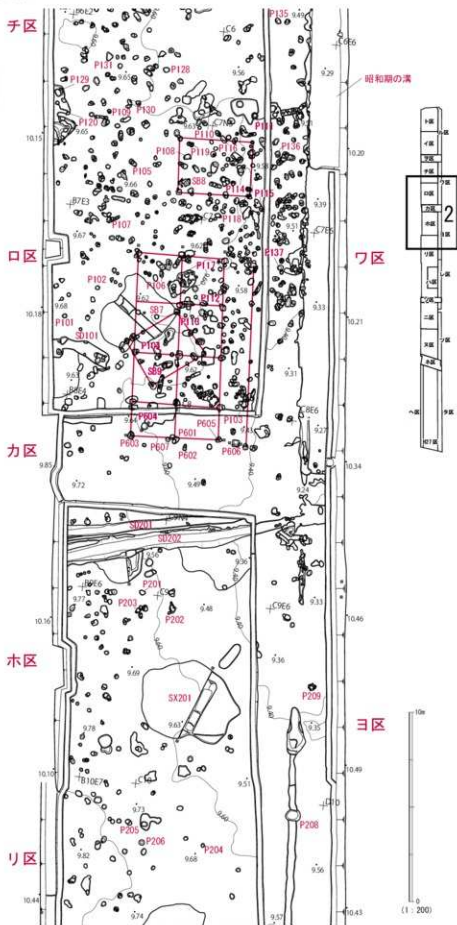


第30図 加茂ボケ生水ウラ遺跡全体図

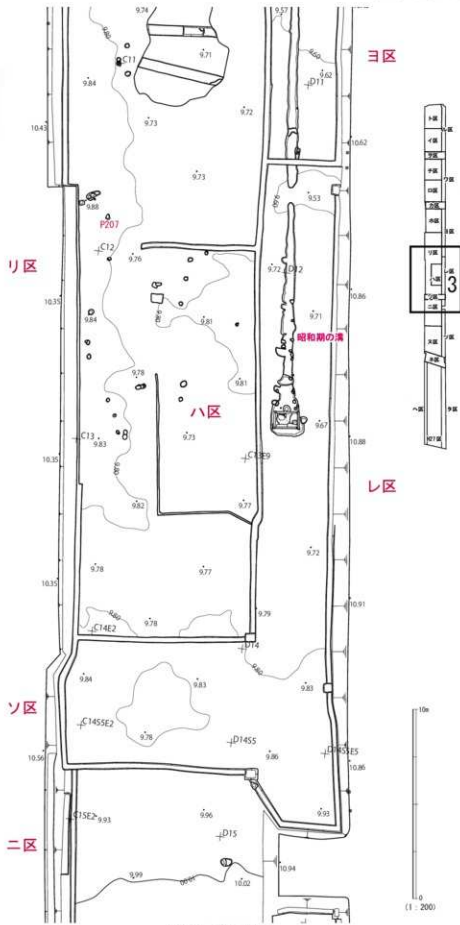




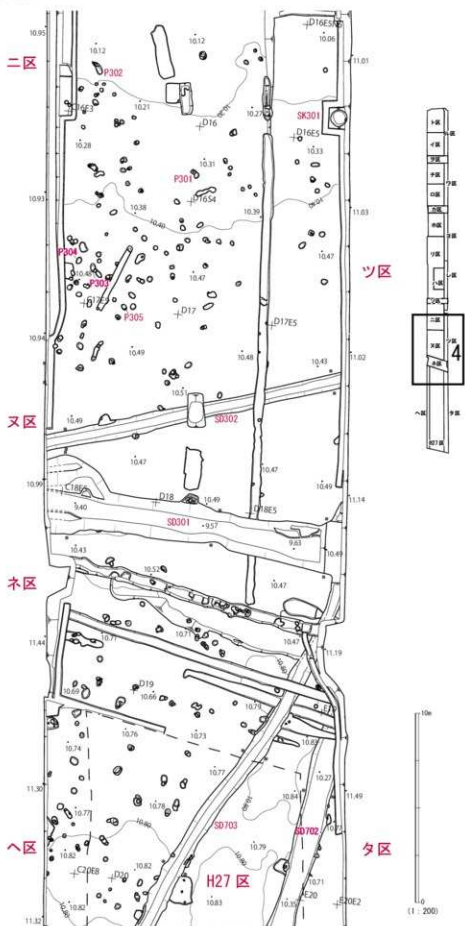
第31図 遺跡全体図1



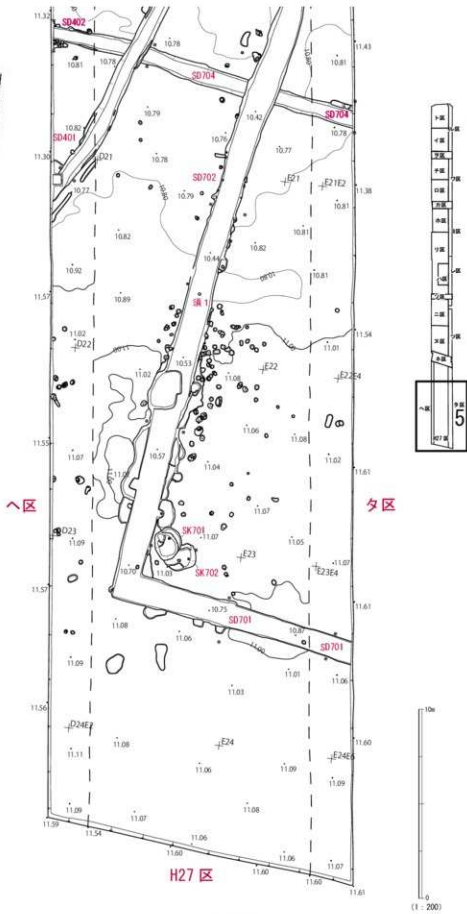
第32図 遺跡全体図2



第33図 遺跡全体図3



第34図 遺跡全体図4



第35図 遺跡全体図5

**SB5**(第38図) ト区B2グリッド付近で検出した。2×3間の側柱建物とみられる。北西側が明確ではないが、北東-南西方向7.3m、北西-南東方向5m、桁行方向の柱間は北西から2.4m、2.6m、2.3m、梁行は南辺で2.2mと2.8mになっている。北西-南東方向の主軸は、西へ16°振っている。柱穴は径26～36cmほどの円形または楕円形を呈し、深さは5～39cmと不揃いである。

**SB6**(第38図) ル区C3グリッド付近で検出した。1×3間分を確認した。北西-南東方向4.7m、北西-南東方向1.6m、柱穴は径20～34cmほどの円形または楕円形を呈し、深さは6～18cmとなっている。プラン東側は削平されているものとみられ定かではない。北西-南東方向を主軸とした場合は、西へ9°振っており、周辺の建物よりも離れた位置にあるSB7の軸に近い。

**SB7**(第39・40・49図) ロ・カ区C8グリッド付近で検出した。2×4間の総柱建物である。南-北方向9.5m、東-西方向4.5m、北辺の梁行柱間は2.25m、東辺の桁行柱間は北から2.5m、2.6m、2.6m、1.8mとなっている。主軸は西へ5°振っている。柱穴は径26～36cmほどの円形または楕円形を呈し、深さは14～37cmである。

東辺より1.5mほどの距離に明確ではないが柱列があり、庇または縁付きの建物だった可能性がある。P601から27の土師皿が出土しており、13世紀頃のものともみられる。

**SB8**(第41図) ロ区C7グリッド付近で検出した。2×2間の側柱建物である。南-北方向2.8m、東-西方向3.8m。北辺の柱間は西から1.2m、1.6m、西辺で1.7mと2.1mになっている。柱穴は径30～42cmほどの円形または略円形を呈し、深さは8～24cmである。

**SB9**(第41図) ロ区C8グリッド付近で検出した。1×2間の側柱建物で、北東-南西方向3.15m、北西-南東方向2.7m、柱間1.35mとなっている。柱穴は径25～45cmほどの円形を呈し、深さは15～45cmである。

**SB10**(第41・48図) ヲ・ワ区B5グリッド付近で検出した。調査区西端に位置し、建物の大部分は調査区外にあるものと想定している。東辺とみられる2間分の柱穴は南-北方向3.7m、柱間1.85m、柱穴平面は60～70cmほどの略方形を呈し、深さは40～50cmである。P122から15の弥生時代終末期頃の甕口縁部が出土している。

## 2. 井戸、土坑、小穴

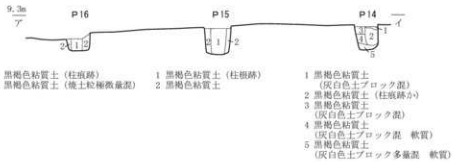
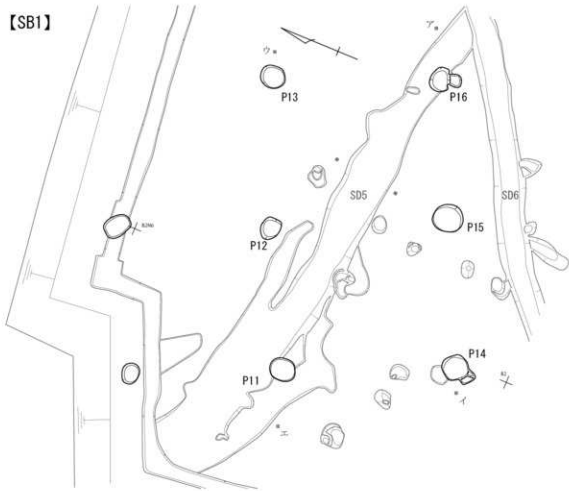
**SE1**(第42・48図) ト区A3グリッドで検出した。平面は楕円形を呈し長さ1.3m、最大幅1mを測る。深さは1mで地山の青灰色粘土を掘り抜き、その下の礎層にまで達している。水は穴底から湧くというよりも礎層全体から染み出ている状態である。礎層部分の掘り込みは粘土層よりも狭くなっているが丸く掘られており、おそらく井戸枠として曲げ物などが据えられていたものとみられる。壁はほぼ直に立ち上がる。

最下位の層4にはヨシのような植物遺体が残存していた。9は非ロクロの土師皿で外面に漆とみられる塗膜があり、内面は指オサエ痕とナデが確認できる。13世紀代と考えられる。10は曲物の底板であり、9・11と共に層4から出土した。

**SK1**(第42図) 主にイ区B5グリッドで検出した。平面は少し偏った長楕円形を呈し長さ2.4m、最大幅1.2m、東側は少し狭くなっており幅0.7mを測る。西側は一辺1mほどの隅丸形状に一段深くなっている。深さは隅丸形状の部分でも16cmほどしかない。実測した遺物はないが弥生時代終末期から古墳時代初頭とみられる土器小片が出土している。

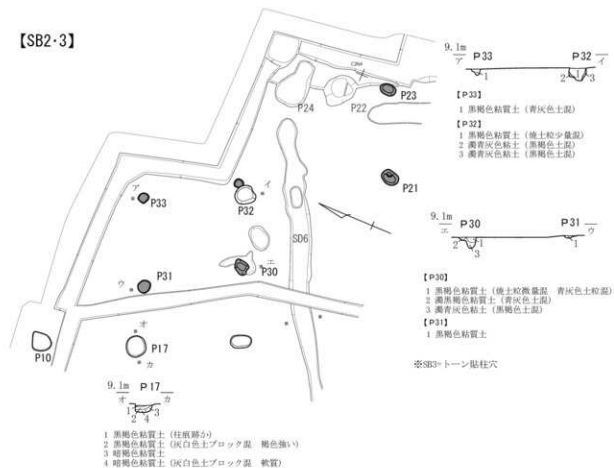
**SK2**(第42・48図) イ区B4グリッドで検出した。平面は崩れた楕円形を呈し最大長1.7m、最大幅0.86m、全体的な深さは10cmほどしかないが、底面には小さな凹みが多くみられた。1の土師器皿は底面

【SB1】

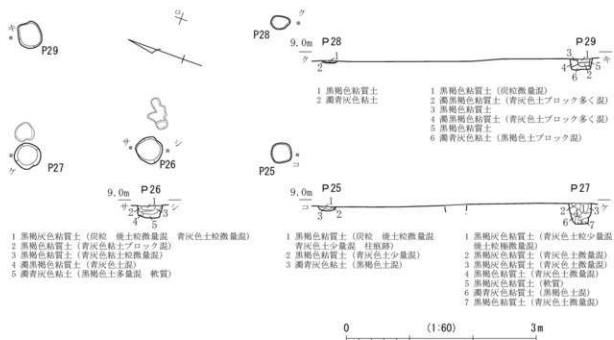


第36図 遺構図1(SB1)

【SB2・3】

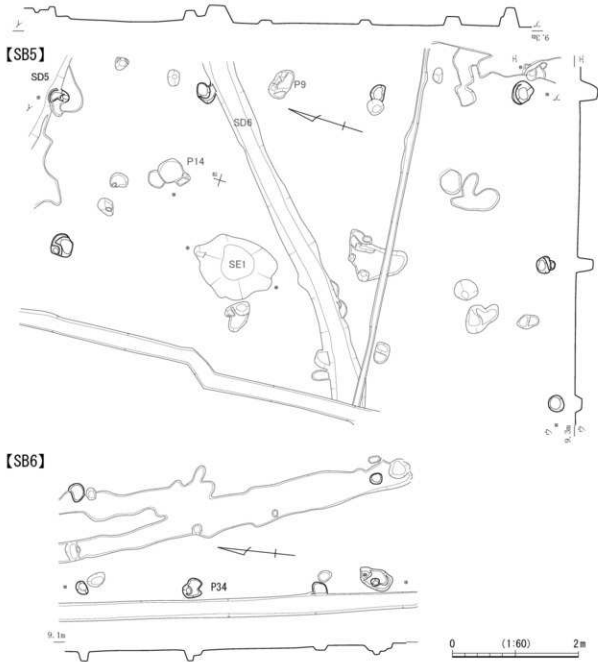


【SB4】



第37図 遺構図2(SB2・3・4)



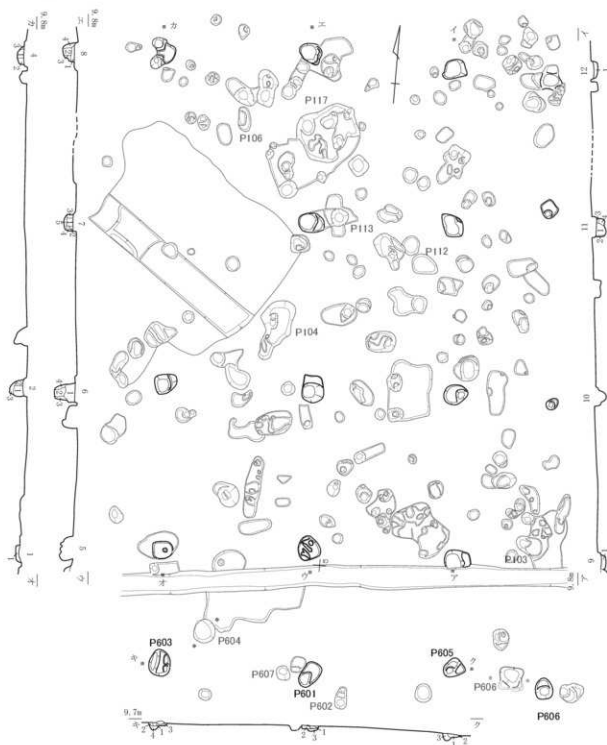


第38図 遺構図3(SB5・6)

に糸切痕が残る。11世紀代とみられる。

**SK4** (第42・48図) ル区B3グリッドで検出した。平面は楕円形を呈し長さ1.15m、最大幅1m、深さは南西側が36cm、北東側は一段低く45cmを測る。土層断面では明確な切り合いなどを確認できなかったので、底は当初から段違いになっていたものとみられる。覆土は上から下まで大きな違いがみられず青灰色土ブロックが混じる黒褐色土が堆積する。2は裝飾器台の盃部である。

【SB7】



【P603】

- 1 暗褐色粘質土 (灰粒・焼土粒)
- 2 黄褐色土粒微量混
- 3 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒少量混)
- 4 暗褐色粘質土 (黄褐色粘質土・黒褐色土混)

【P601】

- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗褐色粘質土 (第1より暗い色調 黄褐色土ブロック少量混)
- 3 濃黄褐色粘質土 (暗褐色土混)

【P605】

- 1 黄褐色粘質土 (灰粒微量混)
- 2 黄褐色粘質土 (灰粒微量混 青灰色土ブロック少量混)
- 3 黄褐色粘質土 (青灰色土ブロック少量混)

0 (1:60) 3m

第39図 遺構図4 (SB7)

## 【SB7-1】

1 黒褐色土（黄褐色土ブロック微量混）

## 【SB7-2】

1 黒褐色土（泥粒混）  
2 黒褐色土（黄褐色土混）  
3 黄褐色土（黒褐色土混）

## 【SB7-4】

1 黒褐色土（黄褐色土ブロック微量混 軟質）  
2 黒褐色土（黄褐色土ブロック微量混）  
3 黒褐色土（黄褐色土ブロック微量混）

## 【SB7-6】

1 黒褐色土（黄褐色土粒少量混）  
2 黒褐色土（黄褐色土粒微量混 軟質）  
3 黒褐色土（黄褐色土ブロック混）  
4 黒褐色土（黄褐色土ブロック混）

## 【SB7-7】

1 黒褐色土（黄褐色土粒微量混 軟質）  
2 黒褐色土（黄褐色土粒微量混）  
3 黒褐色土（黄褐色土粒微量混）  
4 黒褐色土（黄褐色土粒微量混）  
5 黄褐色土（黒褐色土混）

## 【SB7-8】

1 黒褐色土（黄褐色土粒微量混）  
2 黒褐色土（軟質）  
3 黒褐色土（黄褐色土粒微量混）  
4 黒褐色土（黄褐色土粒微量混）

## 【SB7-9】

1 黒褐色土

## 【SB7-11】

1 黒褐色土（黄褐色土粒微量混）  
2 黒褐色粘質土  
3 黒褐色土  
4 黄褐色土（黒褐色土混）

## 【SB7-12】

1 黒褐色土

## 第40図 遺構図5(SB7)

SK5(第42図) ル区C3グリッドで検出した。東側が調査区外にあるが、検出できた範囲では長さ3.2m、深さ34cmを測る。基盤の礫層を底面としている。覆土の下半は青灰色土で埋め戻され、上半は青灰色土のブロックが混じる黒褐色土が堆積する。時期は遺物が出土していないため定かではないが、上半の堆積土はSK4のそれと青灰土ブロックの混じり方などが似ている。

SK501(第42・48図) ヲ区B5グリッドで検出した。平面は隅丸方形を呈し長さ2.28m、幅1.66mを測る。北東辺に小段がある。深さは18cmを測る。遺物は3～8までの土器が出土しており、弥生時代終末期頃のものと思われる。

SK301(第42図) ツ区D16グリッドで検出した。平面は円形を呈し径0.86mを測る。壁はほぼ直に立ち上がり、底は平らである。底面までの深さは48cmを測り、形状から井戸ともみられたが水が染みてくることはなかった。出土遺物がなく、周辺に遺構もないため時期や性格を決めかねる。

SK701(第43図) H27区D23・D24グリッドで検出した。平面は楕円形を呈し長さ1.7m、幅1.4m、深さ38cmを測る。断面は緩やかな碗形をしている。SK702を切って構築している。51は須恵器の双耳瓶であり9世紀頃とみられる。

SK702(第43図) H27区D23・D24グリッドで検出した。平面は楕円形を呈し長さ1.7m、幅1.3m、深さ26cmを測る。SK701に北西部を切られる。

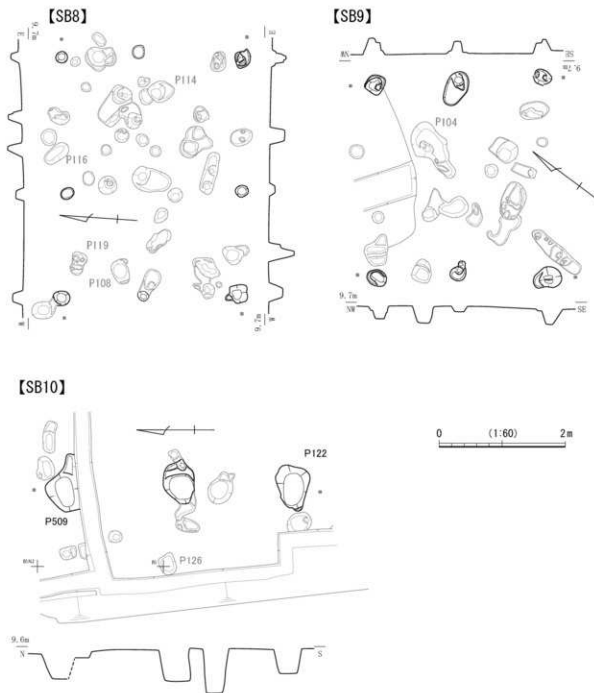
P124(第43・48図) チ区B6グリッドで検出した。平面は崩れた楕円形を呈し径0.46m、深さ39cmを測る。16の平瓦は灰白色で厚さ3.1cm。凹面に布目、凸面に格子の叩きみられる。焼成不良で摩耗している。17の須恵器杯は8世紀後半頃とみられる。18は土師器甕。19の砂岩の砥石は、下部が膨らんだバチ状で上端と下端隅部が欠損している。四面とも使いこまれており滑らかである。

P138(第43図) ワ区C6グリッドで検出した。平面は少し崩れているが円形を呈し径0.46m、深さ40cmを測る。柱痕跡を確認したが、周辺では同規模の柱穴を確認できなかった。

P208(第43・50図) ヲ区C11グリッドで検出した。平面は楕円形を呈し径0.88m、深さ18cmを測る。底に玉砂利が敷かれており、59の寛永通宝が玉砂利下の穴底中央に1枚だけ置かれていた。上部は溝と重複する。溝の開削時期は判断できなかったが、最終的に埋められた時期は昭和である。

P506(第43・49図) ヲ区B5グリッドで検出した。平面は楕円形を呈し長径0.86m、短径0.64m、深さ10cmを測る。25・26の高坏脚部は古墳時代中期頃とみられる。

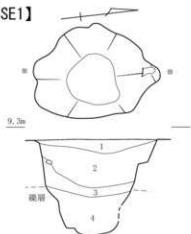
P604(第43図) カ区B9グリッドで検出した。平面は円形を呈し径0.38m、深さ18cmを測る。SB7に近いことから建物柱穴の可能性を考えたがプランを復元できなかった。



第41図 遺構図6 (SB8・9)

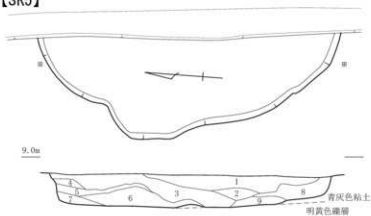
P606(第43図) カ区C9グリッドで検出した。平面は略方形を呈し長さ0.36m、深さ18cmを測る。SB7に近いことから建物柱穴の可能性を考えたがプランを復元できなかった。

【SE1】



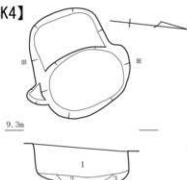
- 1 暗褐色土 (砂粒少量混)
- 2 暗褐色粘質土 (青灰色土粒少量混)
- 3 暗褐色粘質土 (青灰色土ブロックまばらに混)
- 4 暗褐色粘質土 (炭植物混)

【SK5】



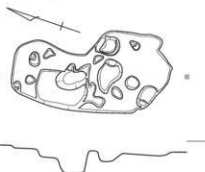
- 1 黒褐色粘質土 (炭粒少量混 青灰色土ブロックまばらに混)
- 2 黒褐色粘質土 (少し茶色がから 青灰色土ブロック少量混)
- 3 黒褐色粘質土 (青灰色土ブロック少量混)
- 4 青灰色粘質土 (黒褐色土混)
- 5 黒褐色粘質土 (青灰色土ブロック少量混)
- 6 黒青灰色粘土 (黒褐色土混)
- 7 黒褐色粘質土 (青灰色土ブロック混)
- 8 黒褐色粘質土 (青灰色土ブロック少量混 褐色土ブロック少量混)
- 9 黒青灰色粘土

【SK4】



- 1 黒褐色粘質土 (青灰色土ブロックまばらに混 炭粒混)
- 2 黒褐色粘質土 (青灰色土粒少量混)
- 3 黒褐色粘質土 (青灰色土ブロック少量混)

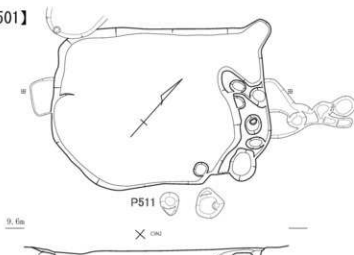
【SK2】



【SK1】

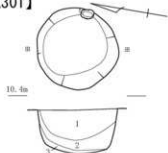


【SK501】



- 1 黒褐色粘質土 (焼土粒 炭粒少量混 黄褐色土粒まばらに混)
- 2 黒褐色粘質土 (黄褐色土ブロック少量混)
- 3 黒褐色粘質土 (黄褐色土粒混)
- 4 黒褐色粘質土

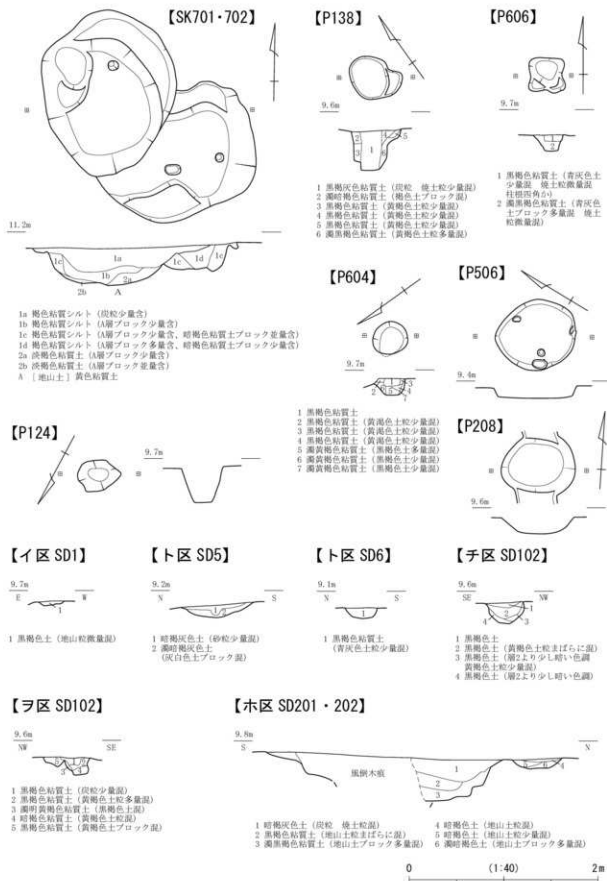
【SK301】



- 1 暗褐色粘質土 (炭粒少量 焼土粒少量混)
- 2 暗褐色粘質土 (層1よりやや小さく 炭粒 焼土粒少量混)
- 3 暗褐色粘質土 (明黄色土粒まばらに混)

0 (1:40) 2m

第42図 遺構図7 (SE・SK)



第43図 遺構図8(SK・P・SD)

## 3. 溝

SD1 (第43図) イ区A4・A5グリッドで検出した。イ区の西側にあり、弧状にのびて両端は調査区外へと続いている。幅0.25 m前後、深さ10 cmを測る。

SD5 (第43図) ト区B2グリッドで検出した。ル区の昭和期の溝から分岐して北西方向にのびる。1.2 ~ 2 mほど、深さ10 cm前後である。

SD6 (第43・49図) ト区B2グリッド付近で検出した。南西-北東方向に緩く蛇行しながらのびており、西側は調査区外に続くが、東側は浅くなって終わっている。幅0.3 mほど、深さは最も深い地点で30 cmを測る。30は高坪の脚部、31は甕の底部で弥生時代終末期から古墳時代初頭頃のものと思われる。

SD102 (第43・49図) チ・ヲ区B6グリッド付近で検出した。「し」字状を呈し、北東-南西方向に9 mほどのびてから南西端で緩やかに北西-南東方向に向きを変えている。溝幅0.4 m、深さ20 cmを測る。本遺構の南西側に逆向きにのびるとみられる溝がある。33は甕の口縁部で古墳時代初頭頃のものと思われる。

SD201 (第43図) ホ区B9・C9グリッドで検出した。東西方向より15°北に振っている。幅0.6 m、最も深い地点で深さ16 cmである。東に行くにしたがって浅くなり、カ区では検出できなかった。

SD202 (第43・49図) ホ・カ区B9・C9グリッドで検出した。ホ区の西端からカ区の東まで調査区を横断しており、27 mほどを検出した。SD201と近接しており同方向にのびる。西側は残りがよく、上幅1.35 m、下幅0.5 m。断面は逆台形を呈し、最も深い地点で深さ50 cmあるが、東に行くにしたがって浅くなりカ区では深さ10 cmほどとなり、最終的には昭和期の溝に切られる。遺物は34の珠洲焼播鉢と図示していないが近世頃の遺物も出土している。

SD301 (第44図) ヌ・ツ区C19・D19グリッドで検出した。東西方向より3°南に振っている。調査区内で延長16 mを確認した。幅2 ~ 2.4 m、深さは東端86 cm、西端100 cmで、東から西に流水していたとみられる。東端でSD703とぶつかるが、湧水が多く壁が崩落する可能性が高かったことから東端部の掘削は断念した。遺構検出の状況では明確な切り合いを確認できなかった。

西端部は北側に大きく膨らんでいる。断面では一度埋まったあとに掘りなおされた形跡がうかがえる。覆土は下位に腐植物を多く含み、上位は砂と粘土の互層堆積となっている。

中央部の北岸で握り拳から赤子頭大の石7個が溝に接して置かれていたが関係は不明である。

SD302 (第44図) ヌ・ツ区C18・D18グリッドで検出した。東西方向より15°北に振っている。調査区内で延長16 mを確認したが、両端は調査区外へと続いている。幅0.8 ~ 1 m、最も深い地点で深さ120 cmである。底面は平らで幅0.3 ~ 0.4 m、レベルに顕著な違いはみられない。地山は検出面より1 mまで黄褐色粘質土で、その下は砂礫層となっている。この境付近から水が染み出てきたことにより、掘削後すぐに下部壁面の大部分が崩落した。

SD402・704 (第45・49・50図) ヘ区SD402とタ・H27区SD704は一連の溝であり、C21・D21・E21グリッドで検出した。東西方向より9°南に振っている。調査区内で延長16.5 mを確認したが、両端は調査区外へと続いている。上幅0.7 ~ 1 m、下幅0.6 m。断面は箱型でしっかりと掘られている。深さは変化に乏しいが、東端80 cm、西端88 cmで西に向けて標高が下がっている。

地山は検出面より80 cmまで黄褐色粘質土で、その下は砂礫層となっている。この境付近からは水が染み出てきた。覆土は上位に暗褐〜黒褐色系の土壌が堆積しており、下位の褐色系土と違いがあることから掘り直しが行われたとみられる。

本遺構はSD702と703に切られており、近辺の溝の中では最も古い時期のものと思われる。遺物は第1次調査で36と37、第2次調査で58の土師器が出土しているが混入とみられる。

**SD701・702**(第45・46・50図) 第1次調査では方向と深さ等の違いから別々の溝と見ていたが、第2次調査で直角に折れてつながることを確認した。そのため東西方向部分はSD701、南北方向部分をSD702としている。SD701はH27区D24・E24グリッド、SD702はタ区E20グリッドからH27区D24グリッドにかけて検出した。

SD701は東西方向より10°南に振っている。調査区内で延長13mを確認しており、西端はSD702の南端につながり、東端は調査区外へと続いている。上幅1.2～1.55m、下幅1～1.35mを測る。SD702は調査区内で延長44mを確認しており、南端はSD701の西端につながり、北端は調査区外へと続いている。上幅1.35～1.45m、下幅1.1～1.4mを測る。深さはSD701の東端が最も浅く8cm、屈曲部で28cm、SD702の北端が48cmとなっており、北に向けて段々と深くなっている。基本的に断面は箱掘りでしっかりと掘られている。

遺物は第1次調査では出土せず、第2次調査で52～56が出土しており、52は坏の転用硯で内底と外底に墨痕が残る。古代の遺物を出土したが、溝の軸は近隣の田畠の区画と似ており近世以降の所産と考えた方がよいだろう。

**SD401・703**(第46・49・50図) ヘ区SD401とネ・H27区SD703は一連の溝であり、D19グリッドからC22グリッドにかけて検出した。僅かに蛇行しつつ、北東―南西方向にのびる。南北方向より24°南に振っており、調査区内で延長30mを確認した。北端はSD301に合流するとみられ、南端は調査区外へと続いている。上幅0.6～1m、下幅0.4～0.5m。断面は箱掘りでしっかりと掘られている。深さは南端45cm、北側60cmで北に向けて標高が下がっている。

遺物はSD401の中ほどの深さから35の砂目積の唐津皿、H27区SD703から57の越前焼とみられる播鉢が出土している。この2点以外に出土遺物はないため、遺構の時期を決めかねるが近世以降の所産と考えた方がよいだろう。

#### 4. その他

**SX1**(第47図) イ区B5グリッド付近で検出した。大型の土坑が連結したようなものと見ていたが、掘り下げると中央やや北寄りの部分が東西方向にのびる溝となっていることがわかった。イ区の調査終了後、ル区の調査時点で東端の昭和期の溝につながることが判明した。

**SX2**(第47・49図) イ区B4グリッドで検出した。土坑のようなものと見ていたが、掘り下げると風倒木痕上の凹みであることがわかった。遺物は38・39の古墳時代中期頃とみられる高坏脚部や未実測の細片が出土している。風倒木痕自体からの出土遺物はない。

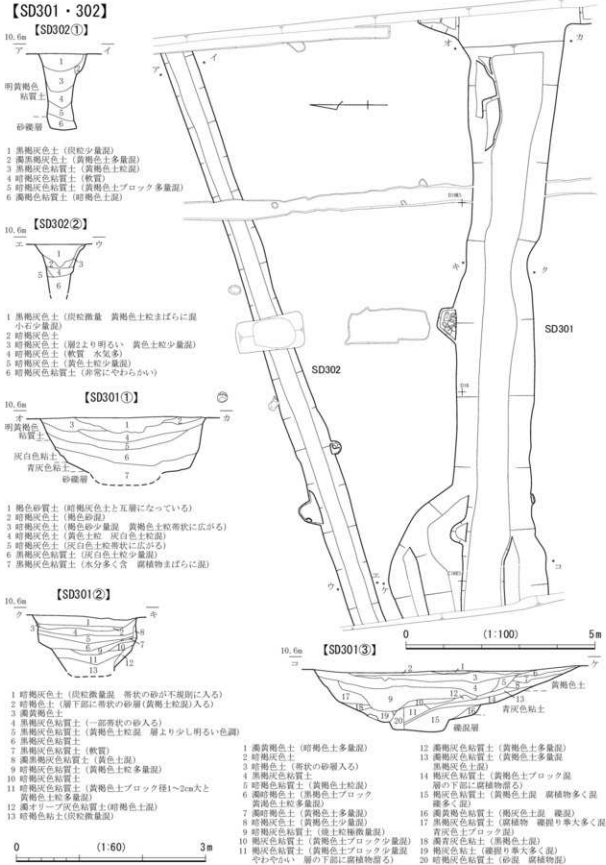
**SX4**(第47・49図) ト区A3グリッドで検出した。南北方向3m、東西方向は調査区にのびるため3m以上、深さ18cmの竪穴状遺構である。底面はほぼ平らで、壁は緩やかな立ち上がりである。

42は器壁が薄く胎土は瓦質のような土器である。小片のため定かではないが、土師皿と推定した。他に40・41の弥生時代終末期の土器も出土しているが、遺構の形状から中世のものと考えられる。

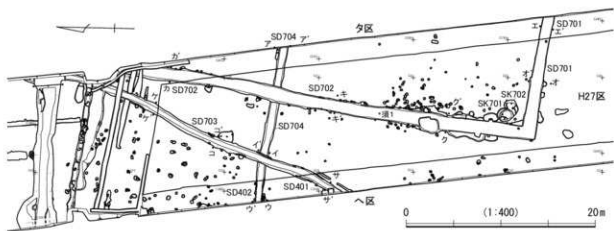
**SX201**(第47図) ホ区C10グリッドで検出した。長さ5m、幅4.5mの風倒木痕である。平面は円環状に黒色土が巡り、その中央部に地山の黄褐色土が堆積する。

SX201といくつかの風倒木痕を断ち割ってみたが、遺物の出土は皆無であった。風倒木痕の多くは円環または三日月状に黒色土があり、中央部に地山の黄褐色土が堆積する特徴がみられた。





第44図 遺構図9(SD301・302)

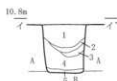


【タ区 SD704】



- 1 暗褐色粘質土 (灰粒微量 黒ボク粒微量 黄褐色土粒少量混)
- 2 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒微量混)
- 3 黄褐色粘質土 (黄褐色土混)
- 4 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒多量混)
- 5 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒少量混)
- 6 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒多量混 水痕痕少)
- 7 褐色粘質土 (黄褐色土粒多量混)
- 8 褐色粘質土 (水非常多量混 黄褐色土少量混)

【H27区 SD704】



- 1 褐色粘質土 (A層2~3mm大ブロック少量含)
- 2 茶褐色粘質土 (A層2~3mm大ブロック多量含)
- 3 暗褐色粘質土 (A層10mm大ブロック少量含)
- 4 灰褐色粘質土 (A層2~3mm大ブロック少量含、しまり貫い)
- 5 淡褐色粘質土 (砂粒含)
- A [地山土] 黄色粘質土
- B [地山土] 砂礫層 (5~50mm円礫混)

【ヘ区 SD402】



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 黄褐色土 (黄褐色土混)
- 4 黄褐色土 (黄褐色土混 層3より深い)
- 5 暗褐色土
- 6 暗褐色土 (黄褐色土粒(粗)多く混)

【タ区 SD701】



- 1 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒多量黒ボク土粒混)
- 2 黄褐色粘質土
- 3 黄褐色粘質土

【H27区 SD701】



- 1a 灰色粘質土 (A層ブロック少量含)
- 1b 灰色粘質土 (A層ブロック多量含、褐色粘質土ブロック少量含)
- 1c 灰色粘質土 (A層ブロック少量含、褐色粘質土ブロック少量含)
- 2a 灰褐色粘質土 (A層ブロック少量含)
- 2b 灰褐色粘質土 (A層ブロック多量含)
- 3 褐色粘質土 (A層ブロック少量含)
- 4 黄色粘質土 (地山土に同じ)
- 5 灰色粘質土
- A [地山土] 黄色粘質土

【タ・ネ区 SD702】



- 1 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒多量 黒ボク粒(黒褐色土粒)まばらに混)
- 2 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒多量 黒ボク粒(黒褐色土粒)まばらに混 黒ボクブロック混)
- 3 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒多量 黒ボク粒(黒褐色土粒)まばらに混)
- 4 暗暗褐色粘質土 (黄褐色土粒多量 黒ボクブロック多量混)
- 5 黄褐色粘質土 (黄褐色土粒多量混、黒ボク土混)
- 6 黄褐色粘質土 (黒褐色土粒)
- 7 黄褐色粘質土 (黄褐色土混)

【H27区 SD702①】



- 1a 褐色粘質土 (A層5~10mm大ブロック多量含)
- 1b 褐色粘質土 (A層5~10mm大ブロック多量含 暗褐色粘質土ブロック多量含)
- 2 淡褐色粘質土 (A層10mm大ブロック少量含)
- A [地山土] 黄色粘質土



第45図 遺構図10(SD)

## 【H27 区 SD702②】



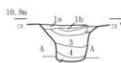
- 1 淡褐色粘質土
- 2a 淡褐色粘質土 (A層1~5mm大ブロック少量含)
- 2b 淡褐色粘質土 (A層5~10mm大ブロック少量含、暗褐色粘質土層ブロック少量含)
- 2c 淡褐色粘質土 (A層5~10mm大ブロック少量含、暗褐色粘質土層ブロック少量含)
- 2d 淡褐色粘質土 (A層10~30mm大ブロック少量含、暗褐色粘質土層ブロック少量含)
- 3 褐色粘質土 (A層5mm大ブロック少量含)
- 4 暗褐色粘質土 (A層5~10mm大ブロック多く混)
- 5 黄色粘質土 (褐色粘質土ブロック少量含)
- 6 黄褐色粘質土 (しまり有、粘質)
- 7 地山土
- 8 黄色粘質土

## 【ネ区 SD703】



- 1 暗褐色粘質土 (炭粒混、黄褐色土粒混)
- 2 暗褐色粘質土 (炭粒混、砂粒多量混)
- 3 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒まばらに混)
- 4 暗褐色粘質土 (層3より暗い色調、黄褐色土ブロック混)
- 5 暗褐色粘質土 (砂粒多量混)
- 6 暗褐色粘質土
- 7 暗褐色粘質土 (砂粒多量混)
- 8 黄褐色粘質土 (黄褐色土混)
- 9 暗褐色粘質土 (黒色強い、水分多く含黄褐色土粒まばらに混)

## 【H27 区 SD703】



- 1a 暗褐色粘質土 (A層5~10mm大ブロック少量含)
- 1b 暗褐色粘質土 (A層10mm大ブロック少量含)
- 2 暗褐色粘質土 (下に褐色粘質土層1cm厚で準同)
- 3 褐色粘質土
- 4 暗褐色粘質土
- 5 黄褐色粘質土 (しまり甘い)
- 6 地山土
- 7 明黄褐色粘質土
- 8 地山土
- 9 黄色粘質土

## 【へ区 SD401】



- 1 暗灰色土
- 2 暗褐色粘質土 (黄色土ブロック混)
- 3 暗褐色粘質土
- 4 暗褐色粘質土 (層3よりややわらさい)
- 5 暗褐色粘質土
- 6 暗褐色粘質土
- 7 暗褐色粘質土
- 8 黄褐色粘質土 (明黄シルト混)
- 9 暗褐色粘質土 (水気有、軟質)

第46図 遺構図11 (SD)

## 第3節 小 結

調査の結果、大きく3時期の遺構・遺物を確認した。まず弥生時代終末期から古墳時代中期頃には、調査区の北部において集落が営まれおり、土坑や溝を確認した。明確な建物は検出できなかったが、SB10は掘立柱建物の可能性がある。これらの遺構はSD6とSD102の間に展開する。

古代は、調査区北部のP104から7世紀頃の須恵器杯、P124から8世紀頃の土器等、SK2から11世紀代の土師器皿、南部ではSK701から9世紀頃の須恵器双耳瓶が出土している。その他に包含層などからも少量の遺物がみられるが、時期や検出位置にまとまりがみられない。

中世は、調査区北側で掘立柱建物等からなる集落を確認した。建物は総柱と側柱がみられ、SB1・7は総柱、SB2・4・8は側柱である。配置状況からSB1とSB2またはSB4、SB7とSB8という組み合わせが推定され、主屋の総柱と納屋的な側柱という関係にあるのではないだろうか。これらは建物の軸からSB1近辺の建物グループとSB7・8の建物グループに分かれる。井戸は1基のみで位置的にみてSB1に伴うものと考えられる。井戸の土師皿9とSB7柱穴の土師皿27はともに13世紀代とみられるが、井戸はそれ以前の使用が考えられることから、SB1近辺の建物グループが先行していた可能性がある。竪穴状遺構SX4も中世に属するだろう。

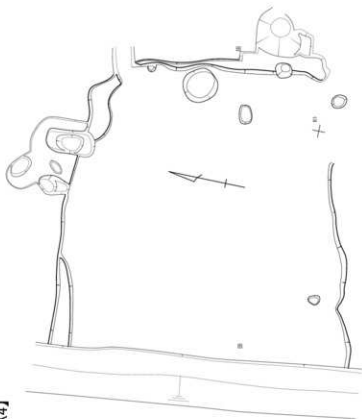
3時期の集落は、地形から判断して高所である西側の田畠下に広がるものとみられる。第51図で中代町の水田中に大聖寺川の氾濫原を確認できる。調査区の反対にも低地の痕跡がみられることから、居住域はこの間の微高地上にあり、低地部分は水田等として利用されていたものと推定される。

【I区 SX1】



- 1 黒褐色土 (粘土粘層)
- 2 暗褐色土 (粘質)
- 3 黒褐色土 (黒砂土層 黒腐木屑土)
- 4 赤褐色土 (黒腐木屑土)

【SX4】



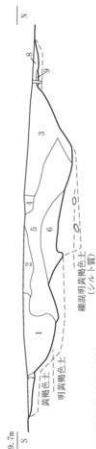
- 1 暗褐色土 (砂粒 腐植まばらに混)
- 2 暗褐色粘質土 (黄褐色土ブロックまばらに混)

【I区 SX2】



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 (粘土粘層)
- 3 暗褐色土 (粘質)
- 4 黒褐色土 (腐植 粘土粘 土層片混)
- 5 黒褐色土 (腐植少量混 黄褐色土ブロック混)
- 6 黒褐色土 (腐植少量混)
- 7 赤褐色土 (黄褐色土粘まばらに混)

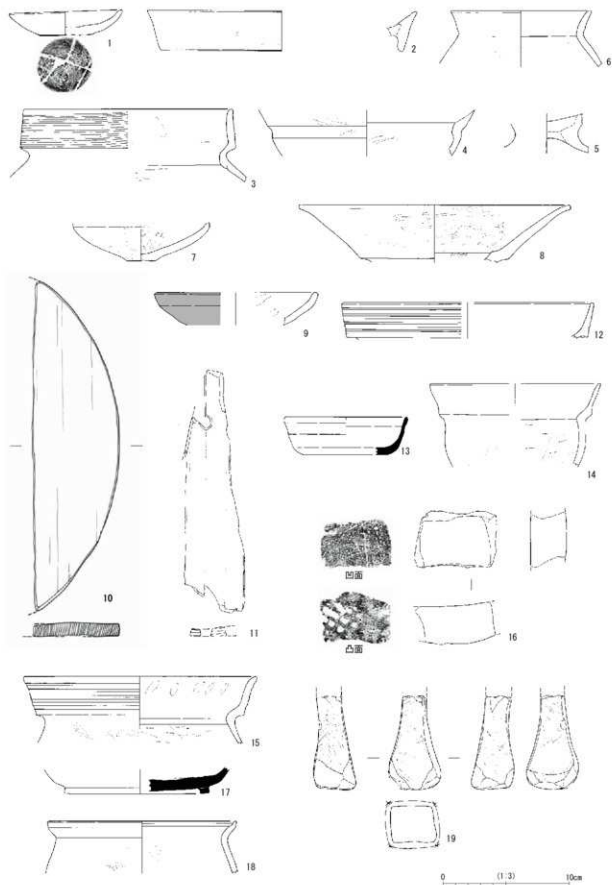
【木区 SX201】



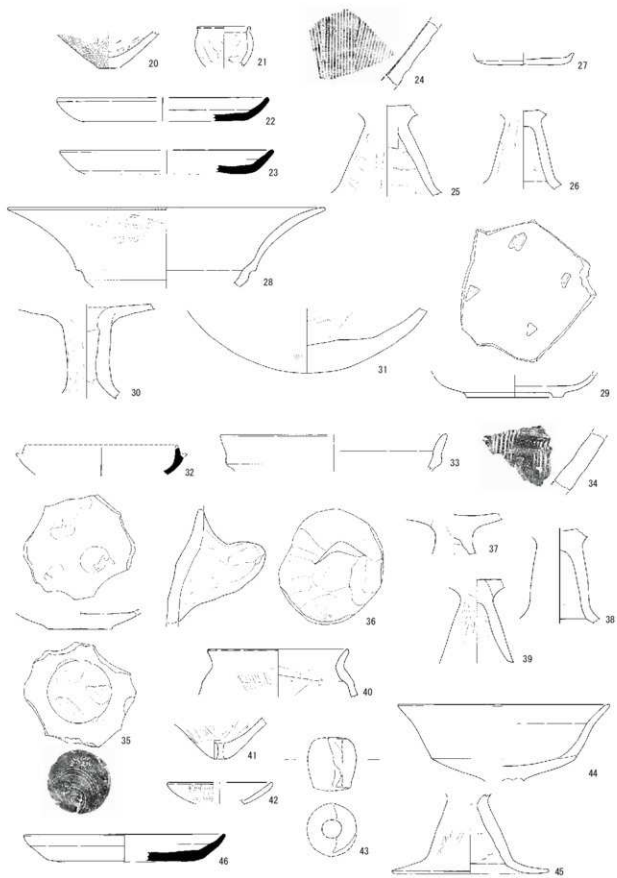
- 1 黒褐色土 (黒砂土混)
- 2 黒褐色土 (粘土粘層)
- 3 暗褐色土 (粘土粘層)
- 4 暗褐色土 (粘質)
- 5 黄褐色土
- 6 明黄褐色土
- 7 暗褐色土 (シルト質)
- 8 暗褐色土
- 9 赤褐色土



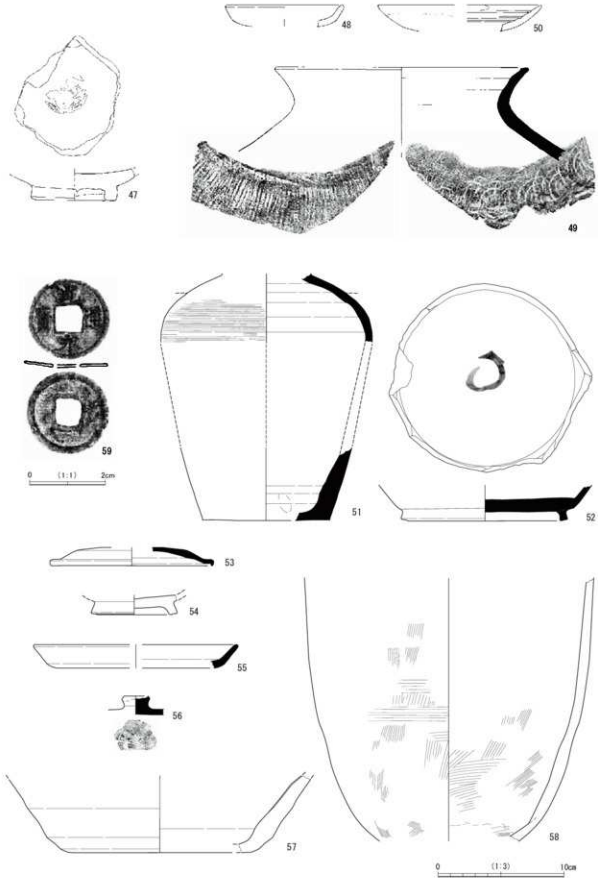
第47図 遺構図12 (SX)



第48図 出土遺物実測図1



第49圖 出土遺物実測図2



第50図 出土遺物実測図3

報告 番号	調査 年度	遺 区	構 層位	種 類	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm) 重量(g)	口縁現 底部現	色調(内) 色調(外)	使 成	調 整(内) 調整(外)	備 考	図化 番号	
1	1次	イ区	土師器	甕	8.8 4.2	2.05	1/12	橙	良	調整(内) 調整(外)		D1	
2	1次	イ区	弥生土器	甕	(3.2)			橙	良	調整(内) 調整(外)		C16	
3	1次	イ区	弥生土器	甕	16.4	(5.8)	1/12	浅黄橙 にぶい黄橙	良	調整(内) 調整(外)	外面煤付着	C18	
4	1次	イ区	弥生土器	鉢		(3.65)		黄橙	良	調整(内) 調整(外)	外面黒斑あり	C19	
5	1次	イ区	弥生土器	台付鉢小甕		(3.1)		浅黄橙	並	調整(内) 調整(外)		C20	
6	1次	イ区	弥生土器	甕	11.1	(4.5)	1/12	赤黒 にぶい赤黒	良	調整(内) 調整(外)		C21	
7	1次	イ区	弥生土器	甕		(5.1)		灰黄	良	調整(内) 調整(外)		C22	
8	1次	イ区	弥生土器	高坏	21.4	(4.55)	1/12	浅黄橙	良	調整(内) 調整(外)		C23	
9	1次	卜区	土師器	甕	13.0	(2.6)	1/12	黄橙	良	調整(内) 調整(外)		D5	
10	1次	卜区	SE1	曲物(底板)							最大長: 26.1cm 最大幅: 6.9cm 最大厚: 1.1cm	木1	
11	1次	卜区	SE1	板状木製品							最大長: 19.2cm 最大幅: 4.8cm 最大厚: 0.8cm	木2	
12	1次	イ区	弥生土器	甕	19.7	(2.9)	1/12	浅黄、橙 浅黄、橙	良	調整(内) 調整(外)	外面煤付着 SB4	C13	
13	1次	イ区	須恵器	無台坏	9.6	3.0	1/12	黄灰	良	調整(内) 調整(外)		D2	
14	1次	イ区	土師器	鉢	13.4	(6.5)	1/12	にぶい黄橙 にぶい黄橙	良	調整(内) 調整(外)		C6	
15	1次	イ区	弥生土器	甕	18.3	(5.3)	2/12	浅黄橙、黄灰 灰黄	良	調整(内) 調整(外)	外面煤付着、ケズリ	SB10	C12
16	1次	イ区	瓦	平瓦				灰白	不良	調整(内) 調整(外)	凸面: 格子タタキ 凹面: 布目	D6	
17	1次	イ区	須恵器	有台坏	11.0		3/12	灰	良	調整(内) 調整(外)		D7	
18	1次	イ区	土師器	甕	14.8	(4.1)	1/12	にぶい黄橙 にぶい黄橙	良	調整(内) 調整(外)		D8	
19	1次	イ区	P124	砥石(砂岩)		116.5g					最大長: 7.45cm 最大幅: 4.1cm 最大厚: 3.3cm	石1	
20	1次	イ区	弥生土器	甕	1.7	(2.9)	12/12	浅黄 黄灰	良	調整(内) 調整(外)		C14	
21	1次	イ区	土師器	手づくね	6.0	(3.2)	3/12	にぶい黄橙 にぶい黄橙	良	調整(内) 調整(外)		C26	
22	1次	又区	須恵器	無台坏	16.6	1.9	1/12	灰	良	調整(内) 調整(外)		D9	
23	1次	又区	須恵器	無台坏	16.8	1.9	1/12	灰	良	調整(内) 調整(外)		D10	
24	1次	卜区	P305	漆前焼 燻鉢		(5.1)		暗灰黄 灰黄	良	調整(内) 調整(外)		D14	
25	1次	イ区	土師器	高坏		(17.2)		橙	良	調整(内) 調整(外)		C24	
26	1次	イ区	土師器	高坏		(6.2)		橙	良	調整(内) 調整(外)		C27	
27	1次	イ区	土師器	高坏		1.05		橙	不良	調整(内) 調整(外)		D11	
28	1次	イ区	弥生土器	高坏	25.0	(6.3)	1/12	浅黄橙 浅黄橙	並	調整(内) 調整(外)	内面赤彩	C1	
29	1次	卜区	SD5	甕	7.1		11/12		良	調整(内) 調整(外)	釉潤: 透明な黄褐色 気泡少ない、貫入なし 胎土色調: 灰黄	D13	
30	1次	卜区	弥生土器	高坏		(7.5)		浅黄橙 黄灰	良	調整(内) 調整(外)		C9	
31	1次	イ区	土師器	甕		(5.1)		暗灰 浅黄橙	並	調整(内) 調整(外)		C17	
32	1次	卜区	須恵器	坏身		(2.2)		灰 灰	並	調整(内) 調整(外)		D15	

第8表 加茂ボケ生水ウラ遺跡出土遺物観察表1



報告番号	調査年次	遺構 区 層位	種類 器 種	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm) 重量(g)	口縁 底部	色表(内) 色表(外)	焼成	調整(内)		備考	図化 番号	
									調整(内)	調整(外)			
33	1次	Ⅱ区 SD102	土師器 甕	17.8	(2.9)	1/12	にぶい黄緑 灰黄緑	良				C11	
34	1次	Ⅱ区 SD202	珠串焼 鉢鉢		(4.6)		灰 灰	良				B12	
35	1次	Ⅱ区 SD401	陶器 皿		(1.9)						清津砂目 釉薬：鉄釉	B4	
36	1次	Ⅱ区 SD402	土師器 瓶か甕		(9.1)		浅黄緑 橙	並			剥離、一部ハケメ残る ナデ、一部ハケメ残る	C7	
37	1次	Ⅱ区 SD402	土師器 高坏		(3.2)		黄緑 橙	良				C8	
38	1次	Ⅱ区 SX2	土師器 高坏		(7.5)		橙 橙	並				C2	
39	1次	Ⅱ区 SX2	土師器 高坏		(6.7)		橙 橙	良			しぼり目 ナデ、ミガキ	C3	
40	1次	Ⅱ区 SX4	弥生土器 甕	10.9	(3.8)	1/12	橙 明赤緑	良			ココナデ、ケズリ ココナデ	C4	
41	1次	Ⅱ区 SX4	弥生土器 有孔鉢		(3.3)		にぶい黄緑 浅黄緑	良			ケズリ ハケメ	外面一部黒斑あり 穿孔痕あり	C5
42	1次	Ⅱ区 SX4北	土師器 皿?	18.6	(1.7)	1/12	黒 黒	良				B16	
43	1次	Ⅱ区 カタラン	土製品 土埴				浅黄緑 浅黄緑	良				C10	
44	1次	Ⅱ区 包含層	土師器 高坏	18.7	(6.1)	1/12	浅黄緑 浅黄緑	不良			磨耗のため調整不明 磨耗のため調整不明	C15	
45	1次	Ⅱ区 カタラン1	土師器 高坏	12.1	(6.3)	12/12	にぶい黄緑 にぶい黄緑	良			ナデ、ケズリ ミガキ	C25	
46	1次	Ⅱ区 表土除去	須恵器 皿	15.8	2.2	2/12	灰白 灰白	良			ココナデ ココナデ、ナデ	内面全体に降灰あり	B3
47	1次	Ⅱ区 カタラン溝	磁器 碗	6.78	(2.55)	12/12						B17	
48	1次	Ⅱ区 包含層	土師器 皿	9.15	(1.7)	1/12	橙 橙	良			ココナデ ナデ	内面かすかに剥離か、 打明けか。	B18
49	1次	Ⅱ区 カタラン溝	須恵器 甕	20.0	(7.4)	3/12	灰 灰、灰白	良			ココロナデ、タタキ ココロナデ、当て具類	B19	
50	1次	Ⅱ区 包含層	土師器 打明皿	12.8	(2.1)	1/12	浅黄緑 浅黄緑	良				釉薬色調：にぶい、黄緑	B20
51	2次	D23区 SK701	須恵器 双耳瓶		(10.1)	2/12	灰 灰	良			ココロナデ ココロナデ、カキ目、 ナデ	耳瓶あり	B27 B2
52	2次	D22区 SD702	須恵器 坏(転用碗)	13.2		12/12	灰 灰	良			ココロナデ ココロナデ ココロナデ	底部外面に墨痕 内面 墨痕 打ち欠きか?	B27 B1
53	2次	D23区 SD702	須恵器 蓋	12.8	(1.5)	1/12	にぶい、橙 にぶい、橙	良			ココロナデ ココロナデ	重ね焼痕あり	B27 B4
54	2次	D23区 SD702	土師器 右台埴	6.8	(1.6)	4/12	浅黄緑 黄緑	良			ココロナデ、ナデ ココロナデ	底部糸切り	B27 B5
55	2次	D23区 SD702	須恵器 甕	16.1	1.9	小片	青灰 青灰	良			ココロナデ ココロナデ	重ね焼痕あり	B27 B7
56	2次	D23区 SD702	須恵器 蓋		(1.5)		灰 灰	良			ココロナデ ココロナデ ココロナデ	内面ヘラ記号あり つまみ径：2.2cm	B27 B8
57	2次	D22区 SD703	前焼埴 鉢鉢	14.4	(6.1)	1/12	にぶい黄緑 にぶい黄緑	良			ココロナデ?	中世末15～16C おろし目	B27 B3
58	2次	D21区 SD704	土師器 長胴甕		(20.8)		浅黄緑 浅黄緑	良			ハケ、ナデ ハケ		B27 B6
59	1次	Ⅱ区 P208	甕水涵宝		1.46g							最大長：2.2cm 最大幅：2.2cm 最大厚：0.5cm	金1

第9表 加茂ボケ生水ウラ遺跡出土遺物観察表2

## 第6章 総 括

一般県道片山津山代線の工事に伴う加茂キツネ塚遺跡、加茂新高遺跡、加茂ボケ生水ウラ遺跡の発掘調査は、3年度にわたり延べ面積7,200㎡を実施した。3遺跡で検出した遺構・遺物は調査面積に比べて希薄であったが、これは過去の耕地整理による削平が影響している。加茂キツネ塚遺跡は土層観察からその影響は軽微であったとみられるが、残り2遺跡は、ほぼ調査区全域に削平が及んでいる。このため遺構の形状や覆土の色、質、位置関係などから時期や性格などを推定したものが多くあり、そのための誤認もあるかと思われる。このような状況ではあるが遺跡の内容をまとめたい。

加茂キツネ塚遺跡は、調査地北部で弥生時代後期後葉の自然河道と水路等を検出した。自然河道のそばでは貯蔵穴の可能性がある土坑を検出した。削平分を考慮しても全般的に遺構・遺物は希薄であり、集落縁辺の状況を呈する。

加茂新高遺跡は、中世の井戸2基と中世以降とみられる溝2条を検出した。遺物では、古墳時代中期または後期の埴輪片が2点出土しており、周辺に古墳の存在が示唆される。

加茂ボケ生水ウラ遺跡は3遺跡の中で最も多く遺構が検出され、調査地北部で弥生時代終末期から古墳時代中期、古代、鎌倉時代の集落を確認し、南部で近世以降とみられる溝を検出した。

以上の成果をまとめると、まず弥生時代後期後葉に加茂キツネ塚遺跡で集落(中心は現加茂集落付近)が現れるけれども、長くは続かなかったようである。この集落が移動したかは定かでないが、次の弥生時代終末期になると加茂ボケ生水ウラ遺跡で古墳時代中期頃まで継続する集落がみられる。

古代は各遺跡で少量の遺物を出土するが、遺構は加茂ボケ生水ウラ遺跡で数基の土坑等が確認されたのみで実態は不明である。

中世は、加茂新高遺跡で井戸2基、加茂ボケ生水ウラ遺跡で13世紀代の掘立建物数棟と井戸1基、堅穴状遺構1基が検出された。掘立柱建物は総柱と側柱があり、主屋と副屋の組み合わせが推定される。

この時期の加茂町は山代庄に属しており、これを支えた集落の一角であったのだろう。

近世以降と考えられる遺構では、加茂ボケ生水ウラ遺跡調査地南部の溝5条がある。

昭和28年の加茂町周辺の空中写真では、川の氾濫原に沿う田と耕地整理された田区画の違いが明瞭に確認される。ネ区の位置にあった農道は保賀道という字名が残されており、用水路が附属していた。農道下には同方向の土管も埋設されており、これとほぼ同方向にのびるSD301はこれらの前身にあたるものと考えられる。SD702・703は農道が敷設される以前の遺構であり、氾濫原沿いの田と軸方向が似ているから、その境を流れていた水路ではなからうか。いずれも時期を確定し得るだけの出土遺物がないため、周辺の状況から近世以降と推定した。



第51図 空中写真トレース図(約1/5,000)



調査地から北方を望む（第1次調査区南半部調査終了時）



調査地から南東方を望む（第2次調査終了時）



調査区全景 (俯瞰、合成写真)



調査地遠景 (第1次調査区北半部完掘時 北西から)



調査地遠景 (第1次調査南半部完掘時 北東から)



調査地遠景 (第2次調査時 東から)



調査地遠景 (第2次調査時 北東から)



第2次調査区完掘状況 (南西から)



SK101完掘状況 (南東から)



SK101土層断面オ (南東から)



S0101完掘状況 (北西から)



S0101土層断面カ (南東から)



SD201完掘状況 (南東から)



SD201完掘状況 (北西から)



SD201土層断面工 (南から)



SD104完掘状況 (南から)



SD104土層断面ケ (南から)



SD205完掘状況（北から）



SD205土層断面ウ（西から）



SD202～204完掘状況（南東から）



SD202～204完掘状況（南から）



SD202土層断面ア（南西から）



S0203土層断面ア (南西から)



S0204土層断面イ (南から)



SX101土層断面ロ (南西から)



調査区壁土層断面A (南東から)



調査区壁土層断面C (南東から)



調査区壁土層断面D (北西から)



発掘作業風景 (第1次調査 南西から)



発掘作業風景 (第2次調査 西から)









調査地上空から東方（加茂集落）を望む



調査地上空から西方を望む



完掘状況 (俯瞰、合成写真)



調査地上空から南方を望む



調査地上空から北方を望む



発掘調査着手前の状況



A区 完掘状況 (南から)



B区完掘状況（北から）



C区完掘状況（北東から）



1・2号井戸周辺完掘状況（南から）



1号井戸土層断面ア（南西から）



1号井戸完掘状況（西から）



2号井戸完掘状況 (南西から)



調査区西壁土層断面A (東から)



1号溝完掘状況 (南西から)



1号溝土層断面工 (西から)



2号溝完掘状況 (南西から)



2号溝土層断面オ (南西から)



3号溝完掘状況 (北東から)



3号溝土層断面キ (南西から)



加茂新高遺跡上空から北方に加茂キツネ塚遺跡を望む



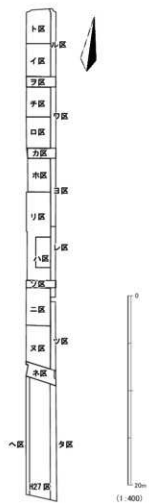


H26 調査区俯瞰（北から）



H27 調査区俯瞰（南から）





全体合成写真



北部建物群



南部溝群



掘削終了ト区（南から）



掘削終了イ区（北から）



掘削終了区 (北から)



掘削終了区 (西から)



掘削終了チ区 (南から)



掘削終了口区 (北から)



掘削終了ワ区（北から）



掘削終了カ区（西から）



掘削終了小区 (南から)



掘削終了リ区 (北から)



掘削終了ハ区 (南から)



掘削終了ヨ区 (南から)



掘削終了レ区 (南から)



掘削終了ソ区 (西から)



掘削終了ニ区 (南から)





掘削終了ヌ区（北から）



掘削終了ネ区（東から）



掘削終了ツ区 (北から)



掘削終了へ区 (北から)



掘削終了タ区 (北から)



ヲ区SK1完掘状況 (東から)



ル区SK4土層断面 (東から)



ル区SK4完掘状況 (北から)



ヲ区SK501土層断面 (南東から)



ヲ区SK501完掘状況 (北東から)



ル区SK5土層断面 (西から)



ル区SK5完掘状況 (南西から)



ツ区SK301土層断面 (西から)



ツ区SK301完掘状況 (西から)



ト区SE1土層断面 (東から)



ト区SE1完掘状況 (北から)



イ区SX1完掘状況 (西から)



イ区SX2遺物出土状況



イ区SX2土層断面 (南から)



イ区SX2完掘状況 (南西から)



ト区SX4土層断面 (南東から)



ト区SX4完掘状況 (東から)



ホ区SX201土層断面 (東から)



ト区SB1-P15土層断面 (北から)



ト区SB1-P12土層断面 (北から)



ト区SB1 (東から)



ル区SB2・3 (北から)



ル区SB4-P26土層断面 (東から)



ル区SB4-P25土層断面 (東から)



ロ区SB7 (北から)



ロ区SB7-7土層断面 (西から)



ロ区SB7-2土層断面 (西から)



カ区SB7の南辺 (西から)



カ区SB7-P601遺物出土状況 (東から)



カ区SB7-P604土層断面 (北西から)



ロ区SB8 (北西から)



チ区S810 (北から)



チ区P124遺物出土状況 (東から)



ヨ区P208完掘状況 (北から)



イ区S1土層断面 (北から)



イ区S1完掘状況 (北から)



ト区S5・6完掘状況 (南東から)



チ区S102土層断面 (北東から)



ヲ区S102土層断面 (西から)



チ区S0102完掘状況 (北東から)



ホ区S0201・202土層断面 (東から)



ホ区S0201・202完掘状況 (東から)



ツ区S0301①土層断面 (西から)



ヌ区S0301②土層断面 (西から)



ヌ区S0301③土層断面 (東から)



ツ・ヌ区S0301 (東から)



ヌ区S0302②土層断面 (東から)





ヌ区S0302 (北東から)



ツ区S0302①土層断面 (西から)



ツ区S0302 (北東から)



へ区S0401土層断面 (北から)



へ区S0402 (北東から)



へ区S0402土層断面 (東から)



へ区S0402完掘状況 (東から)



タ区S0702土層断面 (南から)



夕区S0702完掘状況 (南西から)



ネ区S0703土層断面 (北から)



ネ区S0703完掘状況 (南から)



夕区S0704土層断面 (西から)



夕区S0704完掘状況 (南東から)



ネ区溝群 (南から)



ソ区東壁土層断面 (西から)



ヨ区東壁②土層断面 (西から)



ワ区東壁土層断面 (西から)



ル区東壁土層断面 (西から)



又区西壁土層断面 (東から)



子区西壁土層断面 (東から)



ト区西壁土層断面 (東から)



イ区遺構検出作業



空中写真測量委託2回目



調査区と贈様生水 (南西から)



SK701・702完掘状況（南から）



SK701・702土層断面（南から）



S0701完掘状況（西から）



S0701土層断面イ（東から）



S0701・702完掘状況（南西から）



S0702・703完掘状況（北東から）



S0702土層断面ク（南から）



S0703完掘状況（南西から）



S0703土層断面ク（南西から）



S0704完掘状況（東から）









## 報告書抄録

ふりがな	かがし かもきつねづかいせき かもしんたかいせき かもぼけしょうずらいせき							
書名	加賀市 加茂キツネ塚遺跡 加茂新高遺跡 加茂ボケ生水ウラ遺跡							
副書名	地方道改築事業（一）片山津山代線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	立原秀明、澤辺利明、矢部史朗							
編集機関	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL(076)229-4477 FAX(076)229-3731							
発行機関	石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2016年3月25日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	(新)	(新)			
加茂キツネ塚遺跡	石川県 加賀市 加茂町地内	17206	642700	36度 18分 42秒	136度 21分 30秒	20130920 ～ 20131210 20140512 ～ 20140611	1,750㎡  450㎡	記録保存調査
加茂新高遺跡	石川県 加賀市 加茂町地内	17206	642500	36度 18分 28秒	136度 21分 28秒	20131015 ～ 20131205	1,140㎡	記録保存調査
加茂ボケ生水ウラ遺跡	石川県 加賀市 加茂町地内	17206	642600	36度 18分 15秒	136度 21分 30秒	20140513 ～ 20141027 20150507 ～ 20150610	3,190㎡  670㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
加茂キツネ塚遺跡	集落跡	弥生時代		土坑、溝、自然河道		弥生土器		
加茂新高遺跡	集落跡	中世		井戸、溝		須恵器、土師器		埴輪片出土
加茂ボケ生水ウラ遺跡	集落跡	弥生時代～中世		掘立柱建物、井戸、土坑		弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器		
要約	<p>（加茂キツネ塚遺跡）調査区域は集落の縁辺にあたとみられ、弥生時代後期後葉の自然河道や水路、時期不詳の土坑や耕作溝などを確認した。遺構・遺物の分布状況から弥生集落の中心は、調査地の南東方向、現加茂集落の北辺域に想定される。</p> <p>（加茂新高遺跡）調査区域は集落の縁辺にあたとみられ、中世の素掘り井戸2基、中世以降の溝2条のほか小穴数個を確認した。中世集落の主体は、調査地東側の加茂集落域にあると推定される。また、古墳時代中期あるいは後期の埴輪片2点や古墳時代終末～古代の土師器、須恵器が出土しており、周辺に古墳や古代の集落が存在する可能性がある。</p> <p>（加茂ボケ生水ウラ遺跡）調査地北部では、弥生時代終末期～古墳時代中期と中世の集落を確認した。中世は鎌倉時代の掘立柱建物や井戸などの遺構を検出した。同南部では、近世以降とみられる田畠の区画溝と水路を検出した。</p>							

加賀市 加茂キツネ塚遺跡  
加茂新高遺跡  
加茂ボケ生水ウラ遺跡

発行日 平成28(2016)年3月25日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地  
電話 076-225-1842 (文化財課)

(公財)石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1  
電話 076-229-4477

E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社 ハクイ印刷